インフロニア・ホールディングス
22年3月期　第2四半期アナリスト向け決算説明会

November 15, 2021

INFRONEER Holdings Inc.

今回の決算発表について

1．決算短信

- 上場会社である**インフロニア・ホールディングス名で下記の３社の第2四半期決算短信**を開示しております

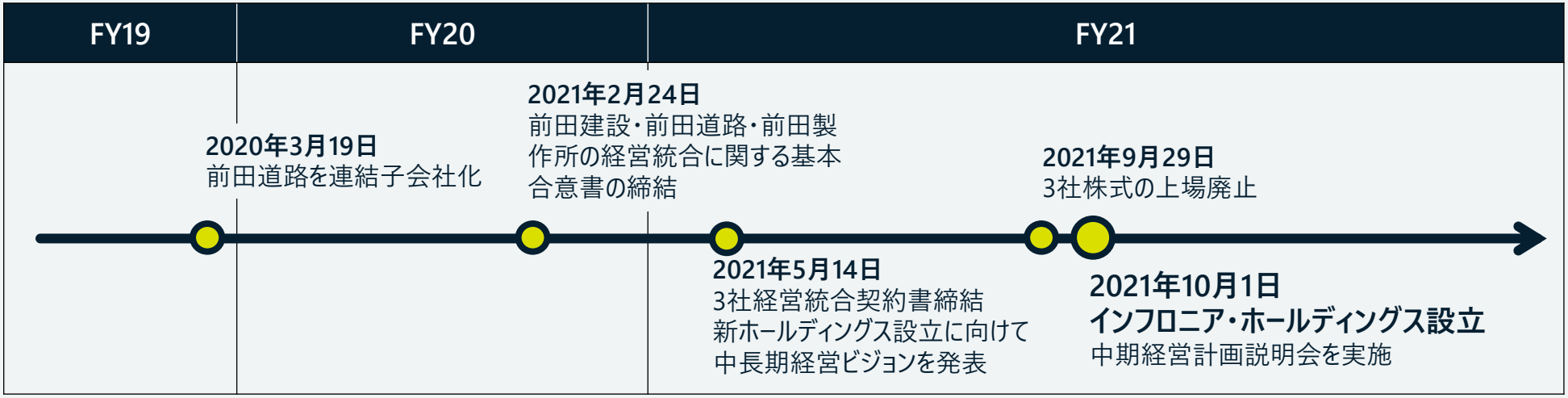
①インフロニアHD（前田建設工業株式会社　第２四半期決算短信＋HDの通期予想）
②インフロニアHD（前田道路株式会社　第２四半期決算短信）
③インフロニアHD（株式会社前田製作所　第２四半期決算短信）

※HDの通期予想は①にのみ記載

2．決算説明会

- インフロニア・ホールディングスとして、「**HDの通期予想**」と「**事業会社３社の２Qの決算**」の説明を行います

3．インフロニア・ホールディングス設立までの経緯



22年3月期第2四半期 決算説明会　目次

インフロニア・ホールディングス　22年3月期の業績予想並びに今後の戦略について

1．決算のポイント

2．決算の概要

2-1．手持工事高の推移（前田建設個別の建築・土木）

（参考）ホールディングス化に伴う連結決算の変化

2-2．セグメント分けの変更

2-3．セグメント別　売上高・利益の内訳

2-4．セグメント別　ハイライト

3．インフロニアホールディングスの戦略のポイント

3-1．インフロニア・ホールディングスが目指す姿

3-2．インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル

3-3．資本戦略・還元方針と今期の実績と見通し

3-4．経営目標数値

前田建設工業㈱　22年3月期（FY21）第2四半期決算概要（P17）

-決算概要-

1．【連結】22年3月期（FY21）損益計算書

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

3．【個別】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

4．主なグループ会社の業績推移と予想　22年3月期（FY21）損益計算書

-事業別ハイライト-

5．【個別】建築事業　完工高と完工利益の推移

6．【個別】建築事業　受注高と受注時利益率の推移

7．【個別】建築事業　建物用途別国内受注比率の推移

8．トピックス-多様な用途における大型工事の受注に向けた取組みに注力

9．【個別】土木事業　完工高と完工利益の推移

10．【個別】土木事業　受注高と受注時利益率の推移

11．トピックス-高速道路を始めとする道路大型更新・リニューアル工事の受注に向けて

12．インフラ運営事業の連結利益への貢献

13．インフラ運営セグメントの利益貢献額について

14．トピックス-運営中のインフラ運営事業

15．大阪市工業用水道特定運営事業等のご紹介

前田道路㈱　22年3月期（FY21）第2四半期決算概要（P36）

-決算概要-

1．【連結】22年3月期（FY21）損益計算書

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

-事業別ハイライト-

3．【連結】建設事業　受注高及び完工高と完工利益の推移

4．トピックス-建設工事実績

5．トピックス-包括管理実績

6．【連結】製造販売　売上高と売上総利益の推移

7．トピックス-製造販売事業

㈱前田製作所　22年3月期（FY21）第2四半期決算概要（P46）

-決算概要-

1．【連結】22年3月期（FY21）損益計算書

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

-事業別ハイライト-

3．【連結】建設機械関連事業　売上高と売上総利益の推移

4．【連結】産業・鉄構機械等関連事業売上高と売上総利益の推移

5．トピックス-魅力ある製品の市場投入

インフロニア・ホールディングス
22年3月期の業績予想並びに今後の戦略について

1． 決算のポイント

①今回の決算について（P. 5 参照）

- 2Q決算は各事業会社の実績、通期はインフロニアHDの見通しを示す
- インフロニアHDの通期予想は、当期純利益が前田建設（連結）の期首予想比で8.1％増、前年実績比で9.1％増となり、過去最高益となる見通し
- 政策保有株式売却の積極的な推進と、ホールディングス化により非支配株主に帰属する当期純利益がインフロニアHDの当期純利益になったことが主な要因（今期は半期分（31億）、来期以降は100％）

②来期以降の見通しについて（ P. 6 参照）

- 建築・土木セグメントともに手持工事高は過去最高水準
- 受注時利益率管理の徹底により、コスト競争が激化している建築事業においても赤字工事がなく、受注時利益率（上期実績：7.8％）は年々上昇しており、来期以降の業績も堅調に推移する見通し

③今期の配当予想について（ P.15参照）

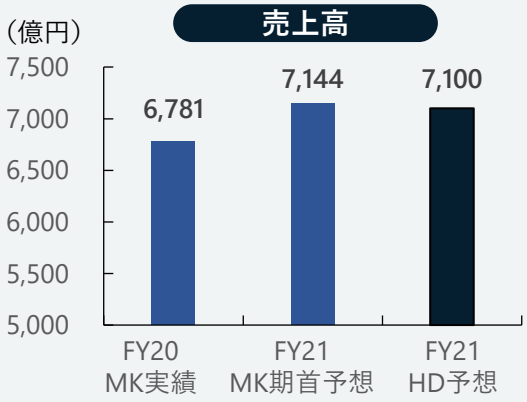
- 今年度の下期に、上積みの可能性があるため、配当予想は3Q決算時に開示（配当性向30％以上とする予定）

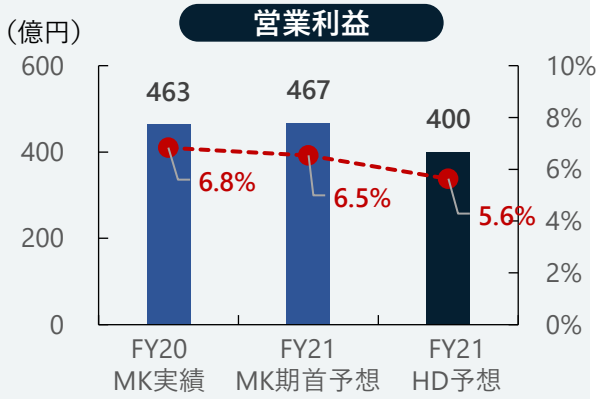
2． 決算の概要

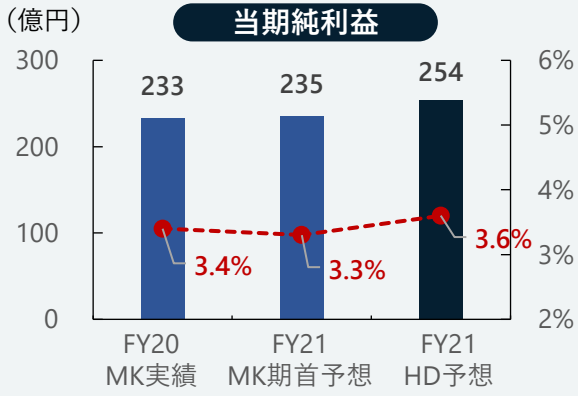
- ホールディングスの通期予想は、原油価格の高騰や一般管理費増の影響により、前田建設の期首予想から営業利益、経常利益の減益を見込む
- 11月にアスファルト販売価格の値上げの発表等の対策を実施しているが、現時点では価格転嫁による利益の回復は、織り込んでいない
- 一般管理費の増加は、建築の競争激化に伴う不落札経費と前田製作所の連結数値を引き付けたことが主な要因

（億円）

	前田建設工業（連結）				インフロニアHD FY21通期予想	進捗率
	FY20通期実績	FY21期首予想	*（参考値）FY21修正予想*	FY21 2Q実績		
売上高	**6,781**	**7,144**	*7,100*	**3,082**	**7,100**	**43.4%**
売上総利益	968	999	*956*	356 (11.6%)	956	37.2%
一般管理費	504	532	*556*	265	556	47.7%
営業利益	**463 (6.8%)**	**467 (6.5%)**	***400 (5.6%)***	**91 (3.0%)**	**400 (5.6%)**	**22.8%**
営業外収益	39	—	—	17	—	—
営業外費用	46	—	—	17	—	—
経常利益	**457 (6.7%)**	**460 (6.4%)**	***397 (5.5%)***	**92 (3.0%)**	**397 (5.6%)**	**23.2%**
特別利益	46	—	—	32	—	—
特別損失	17	—	—	3	—	—
当期純利益	**233 (3.4%)**	**235 (3.3%)**	***223 (3.1%)***	**48 (1.5%)**	**254 (3.6%)**	**18.9%**
自己資本	2,700	—	—	2,676	約3,500※1	
ROE	9.3%※2	—	—	—	約7.3%※3	—
EPS	125.3円	—	—	—	約91円※4	—







※1　11/15に適時開示した自己株取得200億円のうち22年3月末までに約110億円を取得することを見込んで算出（P16参照）

※2　自己資本期中平均値を2,492億円として算出

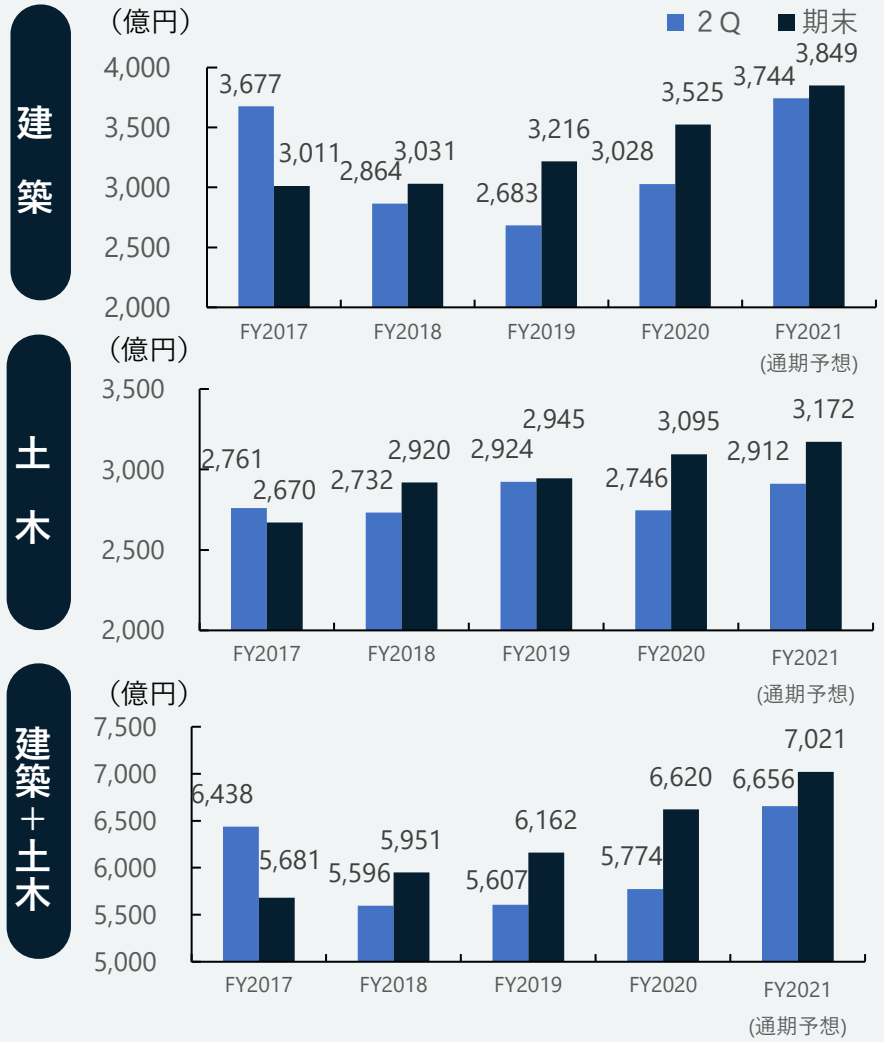
※3　自己資本を※1の3,500億円として算出
ただし、この自己資本は非支配株主持分を全て連結した数値である一方、当期純利益は非支配株主持分が上期分控除されているため、P.7に示す来期以降の当期純利益275.5億円を適用するとROE＝7.9%となる

※4　発行済み株式総数は、自己株取得の買付平均単価を1,000円と仮定し算出

2-1. 手持工事高の推移（前田建設個別の建築・土木）

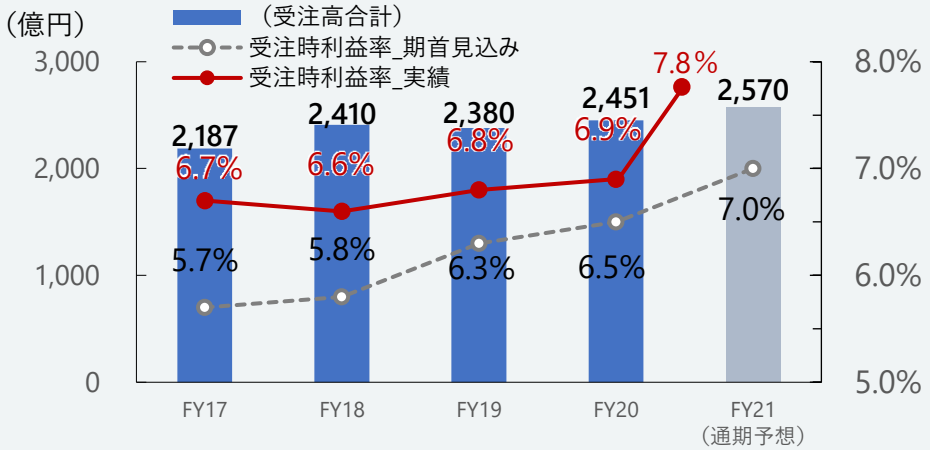
- 手持工事高は、現時点で過去最高水準
- 従前より取り組んでいる受注時利益管理の徹底により、受注時利益率は年々上昇
- 土木の受注時利益率は現時点で8.2%であるが、下期に多数出件する大型官庁案件と設計変更の獲得により目標を達成する見込み

手持工事高の推移



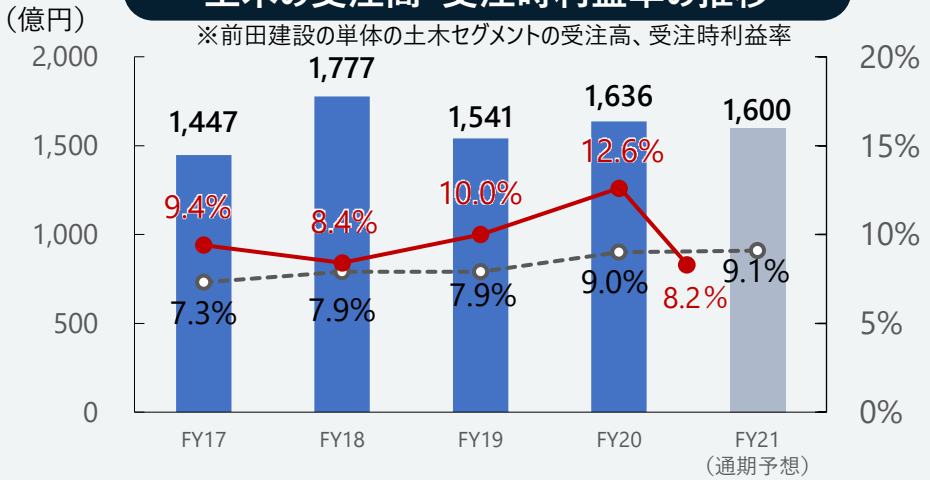
建築の受注高・受注時利益率の推移

※前田建設の単体の建築セグメントの受注高、受注時利益率



土木の受注高・受注時利益率の推移

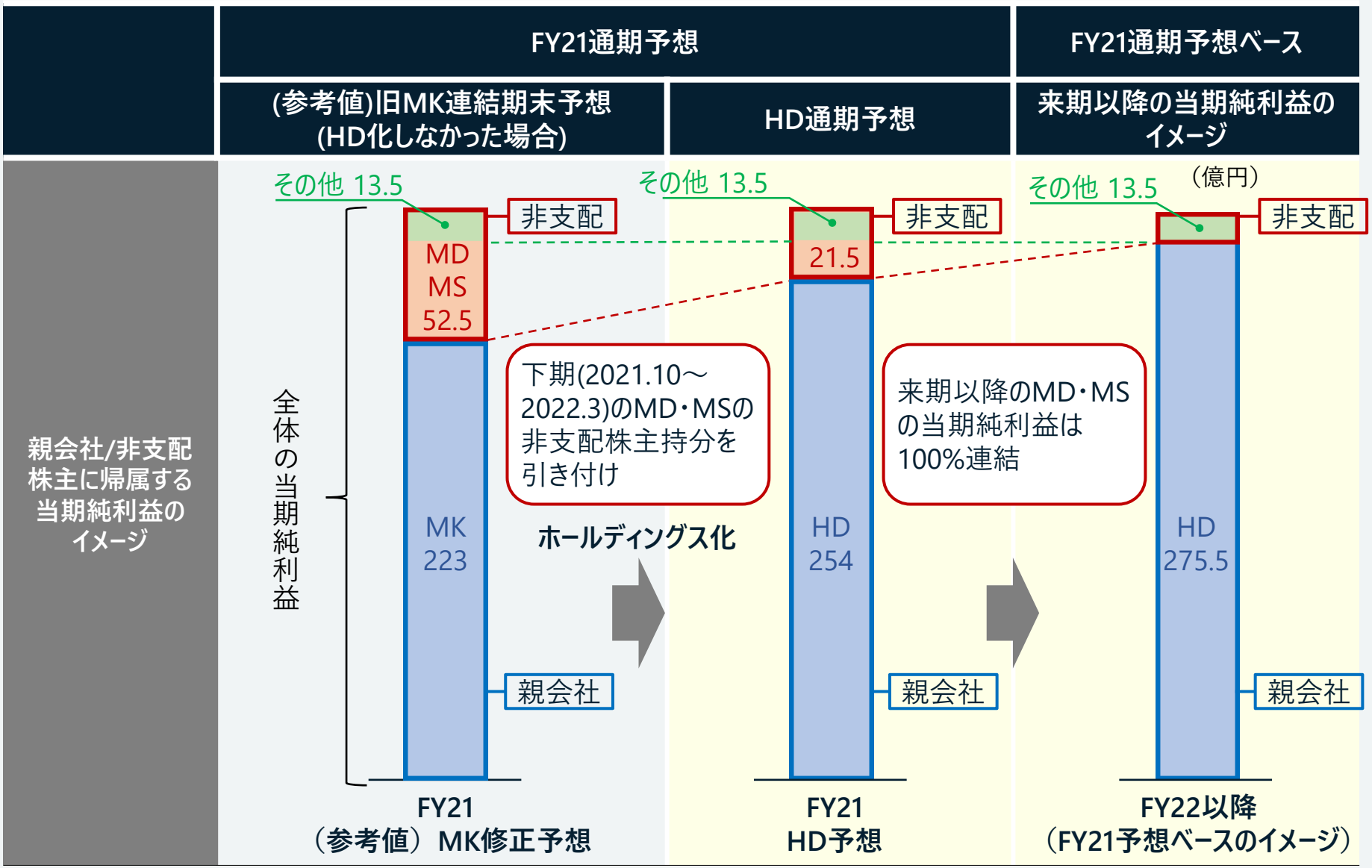
※前田建設の単体の土木セグメントの受注高、受注時利益率



※繰越高、受注高、受注時利益率は、前田建設（単体）の建築・土木セグメントの数値

（参考）ホールディングス化に伴う連結決算の変化

- 21年10月のホールディングス化により、非支配株主に帰属する当期純利益が変化
- FY21下期のMD、MSの当期純利益は、HDの親会社株主に帰属する当期純利益となる（来期以降100%連結）



HD：インフロニア・ホールディングス　MK：前田建設　MD：前田道路　MS:前田製作所

2-2. セグメント分けの変更

- ホールディングス化に伴い、セグメント分けを変更
- セグメント変更に伴う業績数値の大きな変化はない

インフロニア・ホールディングスのセグメント	
建築事業	前田建設工業(株)建築事業 前田建設工業(株)不動産事業（建築）
土木事業	前田建設工業(株)土木事業 前田建設工業(株)不動産事業（土木）
舗装事業	前田道路(株)（連結）
機械事業	(株)前田製作所（連結）
インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発
その他	(株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス フジミエ研(株)

これまでの前田建設連結のセグメント	
建築事業	前田建設工業(株)建築事業 (株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス 建築事業
土木事業	前田建設工業(株)土木事業 (株)エフビーエス 土木事業
舗装事業	前田道路(株)（連結）
製造事業	(株)前田製作所（単体） フジミエ研(株)
インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発
その他	前田建設工業(株)不動産事業 （建築・土木）

2-3. セグメント別　売上高・利益の内訳

（億円）

	インフロニアHD FY21通期予想		差分
	新セグメント	旧セグメント※	
売上高	**7,100**	*7,100*	**0**
建築	2,272	*2,604*	-332
土木	1,503	*1,496*	+7
舗装	2,380	*2,380*	0
機械	337	*362*	-25
インフラ運営	230	*230*	0
その他	378	*28*	+350
売上総利益	**956**	*956*	**0**
建築	249	*276*	-27
土木	235	*233*	+2
舗装	249	*249*	0
機械	74	*80*	-6
インフラ運営	103	*103*	0
その他	46	*15*	+31
営業利益	**400**	*400*	**0**
建築	97	*100*	-3
土木	135	*133*	+2
舗装	50	*50*	0
機械	17	*19*	-2
インフラ運営	85	*85*	0
その他	16	*13*	+3

	前田建設工業（連結）				2Q前年比較	
	FY20通期実績	FY21期首予想	FY20 2Q実績	FY21 2Q実績	増減	増減率
売上高	**6,781**	**7,144**	**3,012**	**3,082**	**+70**	**2%**
建築	2,453	2,720	1,114	1,159	+45	4%
土木	1,490	1,469	715	610	-105	-15%
舗装	2,324	2,380	949	1,054	+105	11%
製造	345	331	154	162	+8	5%
インフラ運営	153	229	72	77	+5	7%
その他	16	15	8	20	+12	148%
売上総利益	**968**	**999**	**412**	**356**	**-56**	**-14%**
建築	232	287	95	101	+6	6%
土木	311	231	148	97	-51	-35%
舗装	307	304	115	93	-22	-19%
製造	64	66	27	31	+4	12%
インフラ運営	47	103	22	22	-0	-0%
その他	7	8	4	12	+8	198%
営業利益	**463**	**467**	**175**	**91**	**-84**	**-48%**
建築	83	120	19	15	-4	-23%
土木	209	135	98	44	-54	-55%
舗装	118	104	34	-0	-34	-101%
製造	15	15	5	8	+3	59%
インフラ運営	33	87	15	14	-1	-6%
その他	5	6	3	10	+7	262%

※インフロニアHDの通期予想の旧セグメントは、前田建設工業の修正予想と同様の数値

2-4．セグメント別　ハイライト

（1）建築セグメント

- 売上高、利益ともに、昨年と同程度で堅調に進捗（P.23）
- 今期末に採算性の良い大型案件の工事完成を控えており、期末では目標を達成する見込み
- 受注は、通期目標の2,600億に対し、進捗率48％（1,244億）
  期末に向けては大型再開発案件の受注を控えており、目標を達成する見込み（P.24）
- 受注時利益率の上期実績は7.8％（目標7％）であり、好採算の案件を順調に受注（P.6、24）
- インフラ運営事業との連携で受注した愛知アリーナ等により、官庁工事は既に通期目標を達成（P.24）
- 来期も、受注時利益を確保した豊富な手持案件（22.3期末予想：3,849億円）により、今期と同水準の業績を見込む（P.6）

（2）土木セグメント

- 売上高、利益ともに、一部工事中断等の影響もあるが、その他の工事は１Q以降順調に進捗（P.28）
- 今期の業績は前期比減に見えるが、FY19、20は特殊要因（大型設計変更等）があったことで例年以上の高い水準であった
  上記の特殊要因を除けば、今期の業績は例年並みの高い水準で進捗（P.28）
- 通期業績では、下期にかけて採算性の良い工事が進捗するため、目標を達成する見込み
- 受注は、通期目標1,600億に対し、進捗率30％（482億）であるが、下期には国交省大型案件も多数控え、民間大型工事の受注目途も立っていることから目標を達成する見込み（P.29）
- 来期以降は、大型案件（リニア等）の本格的な稼働に伴い、堅調な業績を見込む

2-4. セグメント別　ハイライト

（3）インフラ運営セグメント

- コンセッション、再生エネ事業ともに、安定的に進捗
- 今期は、下期に再生エネ事業の売却を計画しており、目標である利益貢献額100億を達成する見込み
- 大阪市工業用水コンセッションの優先交渉権を獲得
  管路の状態監視保全・更新工事から料金徴収までを含む日本初のオールイン工水コンセッション事業であり、今後市場拡大が予想される管路の維持管理更新事業の大きな足掛かりとなる（P.35）

（4）舗装セグメント

- 売上高は順調に推移しているが、原油価格高騰の影響もあり、今期は減益となる見込み（P.9、37）
- 期首より原油価格高騰に対する値上げを検討し、11月に全国一斉値上げを発表
- 通期では、値上げの促進と徹底した原価管理により収益性の改善を図る
- また、建設工事は上期に大型完成案件が少ないため、利益率があがらなかったが、これらの案件が下期に完成に向かうことに伴い、利益率は改善する見込み（P.40）
- 受注は、コロナの影響で民間メンテナンス工事の投資が抑制され、上期は前年同期比で微減
  下期に向けて、民間メンテナンス工事の投資も回復傾向にあるほか、国土強靭化のための５ヵ年加速化対策に伴う土木工事の発注も堅調に推移しており、目標を達成（1,690億）する見込み（P.40）

（5）機械セグメント

- 売上高は順調に推移し、売上総利益も前年同期比9.6％増で進捗（P.47）
- 国内の建設機械受注も順調に推移し、海外の販売も今期は持ち直しており、目標を達成する見込み
- バッテリ仕様クレーンのラインナップ拡充により、ヨーロッパを中心に需要の増加を見込む（カーボンニュートラル対応）

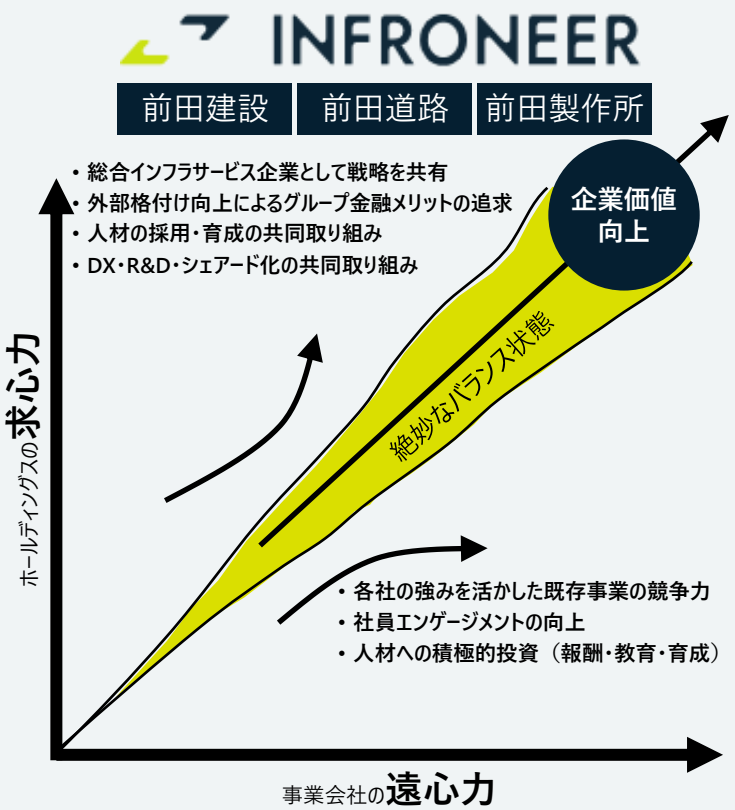
3． インフロニア・ホールディングスの戦略のポイント

①インフロニア・ホールディングスの経営コンセプト

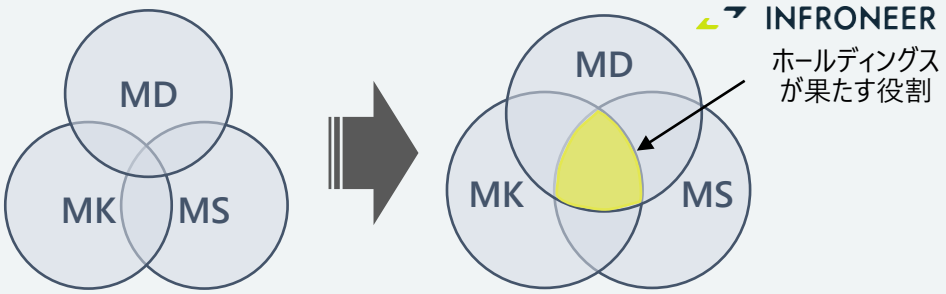
- ホールディングスの**求心力**と事業会社の**遠心力**の絶妙なバランスを保ち、**爆発的な企業価値向上**を目指す

②インフロニア・ホールディングスが目指す姿

- 「**総合インフラサービス企業**」をグループ全体戦略として共有し、外的要因に左右されない「**高収益かつ安定的な新たな収益基盤**」を確立
- **グループ全体で戦略を共有し、シナジーの最大化**によって、持続的な成長を実現
- **あらゆるステークホルダーから信頼される企業**を目指す



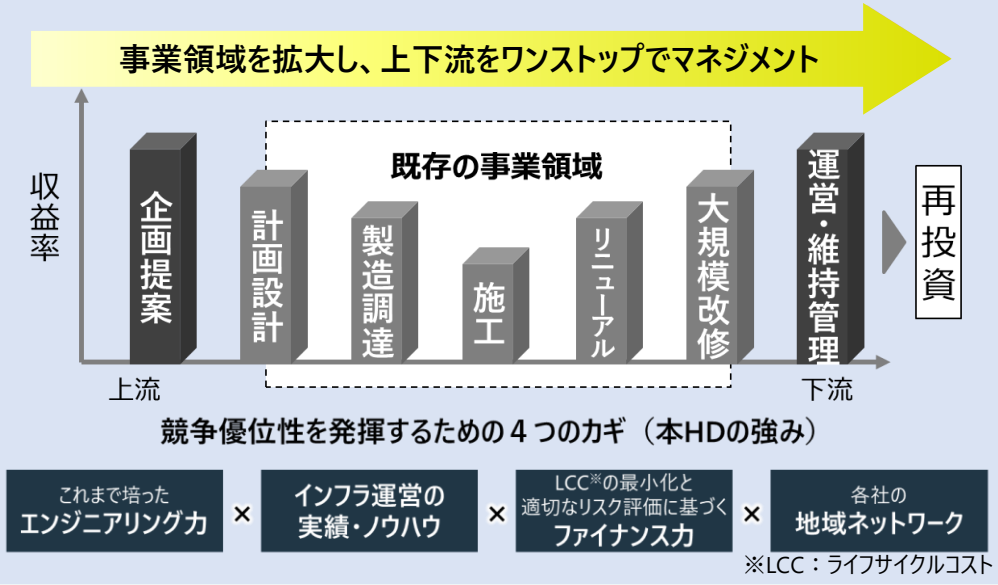
これまでの3社の関係　　**グループが目指す関係**



3-1. インフロニア・ホールディングスが目指す姿

- 外的要因に左右されずに持続的成長を実現するビジネスモデルの確立を目指し、インフラ運営の上流から下流までをワンストップでマネジメントする「**総合インフラサービス企業**」をグループ全体戦略として強力に推進する
- グループ各社のエンジニアリング力の結集と、積極的なM&Aによる事業領域の拡大により、競争力を早期に最大化し、外的要因に左右されない「**高収益かつ安定的な新たな収益基盤**」を確立する
- さらに、実効性のあるガバナンス体制の構築やDXの推進等により、迅速かつ適正な経営を実現し、「**社会変化への対応力**」を強化することで、「**あらゆるステークホルダーから信頼される企業**」を目指す

HDが目指すビジネスモデル：『総合インフラサービス企業』



社会変化への対応力の強化

ガバナンスのさらなる強化

- ●機関設計を**指名委員会等設置会社**へ
- ●権限委譲による意思決定の迅速化
- ●**独立社外取締役を過半数設置**
- ●取締役会**議長は独立社外取締役**
- ●**指名・報酬・監査委員長は独立社外取締役**
- ●**ダイバーシティ**等、多様な人財の配置

変化への対応力強化

- ●**ICT・DX**による迅速かつ適正な対応力
- ●**積極的なM&A**による事業領域拡大
- ●**ESG、SDGsへの対応強化**

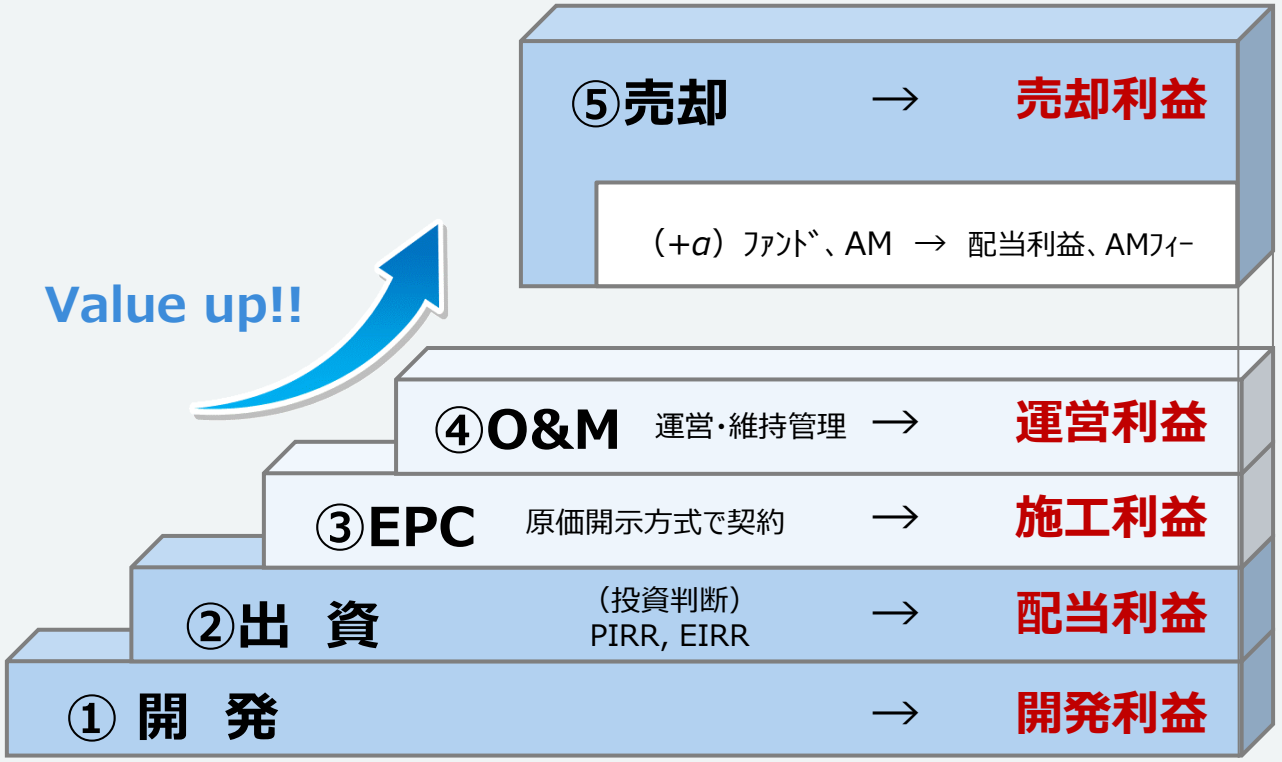
高収益かつ安定的な新たな収益基盤の確立　　**社会変化への対応力**

↓

あらゆるステークホルダーから信頼される企業を目指す

3-2．インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



- **事業から5段階＋αで収益を獲得**
- **施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）**

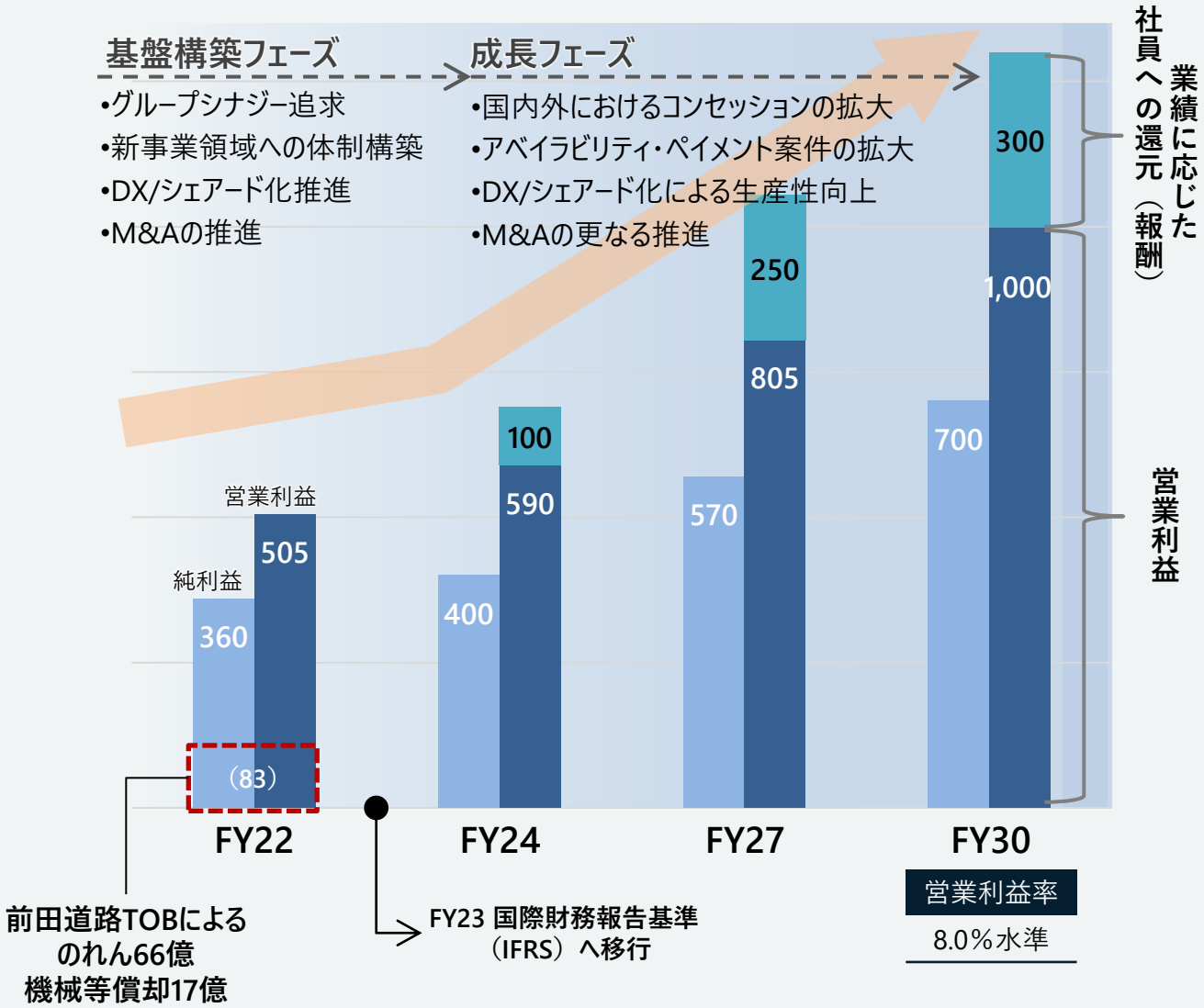
3-3. 資本戦略・還元方針と今期の実績と見通し

- 企業価値向上を最優先に、資本効率・最適資本構成・株主還元の目標を設定
- 今期の実績と見通しは、以下の通り

Medium-term Vision （中期経営計画） 2024			今期の実績と見通し
資本効率	ROE	9.5%	–
最適資本構成	自己資本比率	30%以上	–
	D/Eレシオ	0.6倍以下	–
株主還元	配当性向	30%以上	3Q決算時に公表予定
	自己株式の取得	FY24までに 400億円以上	11/16より、以下の内容で市場から自己株式の取得を実行（11/15付けで適時開示） • 取得価格の総額：200億円（上限2,800万株） • 取得期間：2021年11月16日～2022年11月15日
資産効率化	政策保有株/純資産割合	20%以下	上期実績： 5銘柄 約20億円を売却済み 下期予定：10銘柄程度 約40億円を売却予定 FY24までに、さらに200億円程度を目標に売却を実施
	保有資産の売却	✓ グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を検討	

3-4. 経営目標数値

- 30年度に売上高1.2兆超、営業利益1,000億以上（営業利益率8％水準）、純利益700億以上、ROE12％以上を目指す



2030年度目標
営業利益※ 1,000億以上
純利益※ 700億以上
ROE 12％以上

FY21以降
配当性向 30％以上

※利益はIFRSを前提とした数値（のれんの償却は計上せず　売却益・持分法適用利益・M&A含む）

前田建設工業(株)
22年3月期（FY21）第２四半期　決算概要

1．【連結】22年3月期（FY21）損益計算書

- FY21 2Q　売上総利益率は特殊要因（土木の大型設計変更等）を除くと前年と同程度
- FY21通期　建築・土木は例年と同程度を見込むも、舗装セグメントの減益に伴い、通期予想を見直し

第2四半期

（億円）

	FY20実績	FY21実績	前年比較	
			増減	増減率
売上高	3,012	3,082	70	2.3 %
売上総利益	412 (13.7%)	356 (11.6%)	-56	-13.6 %
一般管理費	237 (7.9%)	265 (8.6%)	28	11.7 %
営業利益	175 (5.8%)	91 (3.0%)	-84	-47.9 %
経常利益	191 (6.3%)	92 (3.0%)	-99	-51.9 %
親会社株主に帰属する四半期純利益	102 (3.4%)	48 (1.6%)	-54	-52.8 %

通期

（億円）

	①FY20実績	FY21通期予想		前年比較(③と①の比較)		期首予想との比較(③と②の比較)		HD通期予想
		②期首予想	*③修正予想*	増減	増減率	増減	増減率	
売上高	6,781	7,144	*7,100*	+319	4.7 %	-44	-0.6 %	7,100
売上総利益	968 (14.3%)	999 (14.0%)	*956 (13.5%)*	-12	-1.2 %	-43	-4.3 %	956 (13.5%)
一般管理費	504 (7.4%)	532 (7.4%)	*556 (7.8%)*	+52	10.3 %	+24	4.5 %	556 (7.8%)
営業利益	463 (6.8%)	467 (6.5%)	*400 (5.6%)*	-63	-13.6 %	-67	-14.3 %	400 (5.6%)
経常利益	457 (6.7%)	460 (6.4%)	*397 (5.6%)*	-60	-13.1 %	-63	-13.7 %	397 (5.6%)
親会社株主に帰属する当期純利益	233 (3.4%)	235 (3.3%)	*223 (3.1%)*	-10	-4.2 %	-12	-5.1 %	254 (3.6%)

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

（億円）

旧セグメント	第２四半期 FY20 2Q実績	第２四半期 FY21 2Q実績	第２四半期 前年比較	通期 ①FY20 実績	通期 ②FY21 期首予想	通期 ③FY21 修正予想	通期 前年比較 ③－①	通期 期首予想との比較 ③－②	新セグメント	HD FY21 通期予想
売上高	**3,012**	**3,082**	**+70**	**6,781**	**7,144**	*7,100*	**+319**	**-44**	**売上高**	**7,100**
建築	1,114	1,159	+45	2,453	2,720	*2,604*	+151	-116	建築	2,272
土木	715	610	-105	1,490	1,469	*1,496*	+6	+27	土木	1,503
舗装	949	1,054	+105	2,324	2,380	*2,380*	+56	0	舗装	2,380
製造	154	162	+8	345	331	*362*	+17	+31	機械	337
インフラ運営	72	77	+5	153	229	*230*	+77	+1	インフラ運営	230
その他	8	20	+12	16	15	*28*	+12	+13	その他	378
売上総利益	**412**	**356**	**-56**	**968**	**999**	*956*	**-12**	**-43**	**売上総利益**	**956**
建築	95	101	+6	232	287	*276*	+44	-11	建築	249
土木	148	97	-51	311	231	*233*	-78	+2	土木	235
舗装	115	93	-22	307	304	*249*	-58	-55	舗装	238
製造	27	31	+4	64	66	*80*	+16	+14	機械	74
インフラ運営	22	22	0	47	103	*103*	+56	0	インフラ運営	103
その他	4	12	+8	7	8	*15*	+8	+7	その他	46

3．【個別】セグメント別 売上高・売上総利益の内訳

（億円）

		第２四半期 FY20 実績	第２四半期 FY21 実績	通　期 FY20 実績	通　期 FY21 期首予想	通　期 *FY21 修正予想*
売上高		**1,701**	**1,653**	**3,661**	**3,930**	*3,860*
建築	計	976	1,013	2,144	2,385	*2,264*
	国内	972	1,013	2,139	2,375	*2,263*
	海外	5	0	5	10	*1*
土木	計	710	615	1,486	1,455	*1,494*
	国内	705	613	1,477	1,452	*1,488*
	海外	5	2	9	3	*6*
ｲﾝﾌﾗ運営		6	6	14	75	*75*
不動産		8	20	16	15	*28*
売上総利益		**243 (14.3%)**	**200 (12.1%)**	**537 (14.7%)**	**560 (14.2%)**	***560 (14.5%)***
建築	計	87 (9.0%)	88 (8.7%)	208 (9.7%)	252 (10.6%)	*243 (10.7%)*
	国内	87 (9.0%)	88 (8.7%)	208 (9.7%)	251 (10.6%)	*242 (10.7%)*
	海外	0 (7.4%)	-0 (11.2%)	1 (11.8%)	1 (10.0%)	*0 (25.0%)*
土木	計	146 (20.5%)	95 (15.4%)	307 (20.6%)	225 (15.5%)	*228 (15.2%)*
	国内	146 (20.6%)	94 (15.3%)	307 (20.8%)	225 (15.5%)	*224 (15.1%)*
	海外	0 (1.4%)	1 (42.5%)	-0 (-2.8%)	0 (3.1%)	*4 (65.1%)*
ｲﾝﾌﾗ運営		6 (97.7%)	6 (99.8%)	14 (99.0%)	75 (100.0%)	*75 (100.0%)*
不動産		4 (47.5%)	12 (58.1%)	7 (45.2%)	8 (53.3%)	*15 (53.8%)*

4．主なグループ会社の業績推移と予想　22年3月期（FY21）損益計算書

（百万円）

連結子会社	㈱エフビーエス				フジミ工研㈱			
	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想
売上高	21,572	23,014	20,657	21,000	7,181	7,317	7,200	7,315
営業利益	1,011	995	935	940	421	310	150	235
経常利益	1,043	1,027	965	961	439	350	173	1,773
当期純利益	654	637	620	620	389	251	145	1,346

連結子会社	㈱JM				愛知道路コンセッション㈱			
	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想
売上高	31,316	19,794	23,000	23,000	16,232	12,836	14,083	修正なし
営業利益	304	△92	610	460	3,663	3,147	2,404	
経常利益	308	△48	674	476	2,155	1,692	1,075	
当期純利益	185	△62	508	167	1,987	1,555	980	

持分法適用会社	東洋建設㈱				光が丘興産㈱ ※1			
	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想	FY19実績	FY20実績	FY21期首予想	今回修正予想
売上高	156,689	154,799	152,500	修正なし	48,854	44,554	3,800	3,600
営業利益	8,259	12,984	8,100		815	826	500	350
経常利益	8,477	12,833	8,100		1,307	1,340	1,170	2,800
当期純利益	5,664	8,488	5,600		898	802	830	2,100

※１　光が丘興産のFY21の売上高の大幅な減少は、収益認識に関する会計基準の適用による

事業別ハイライト

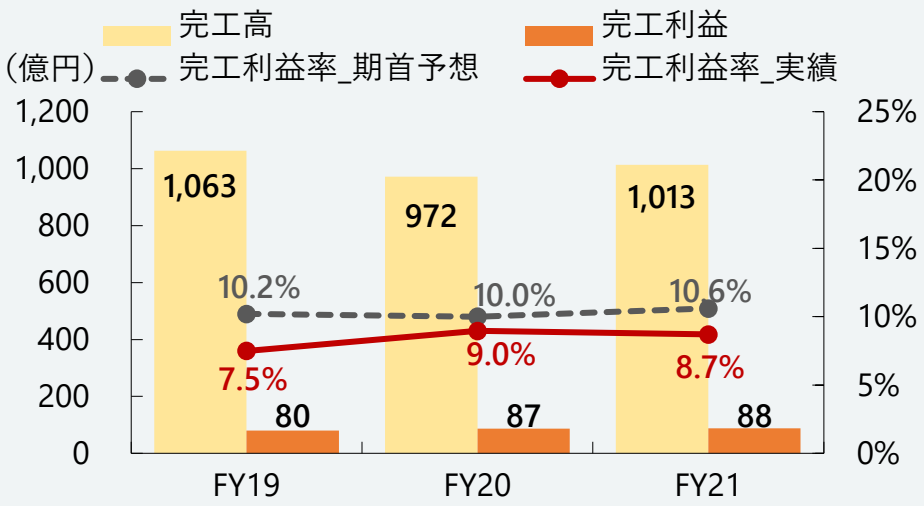
建築事業	土木事業	インフラ運営事業（脱請負）

5．【個別】建築事業 完工高と完工利益の推移

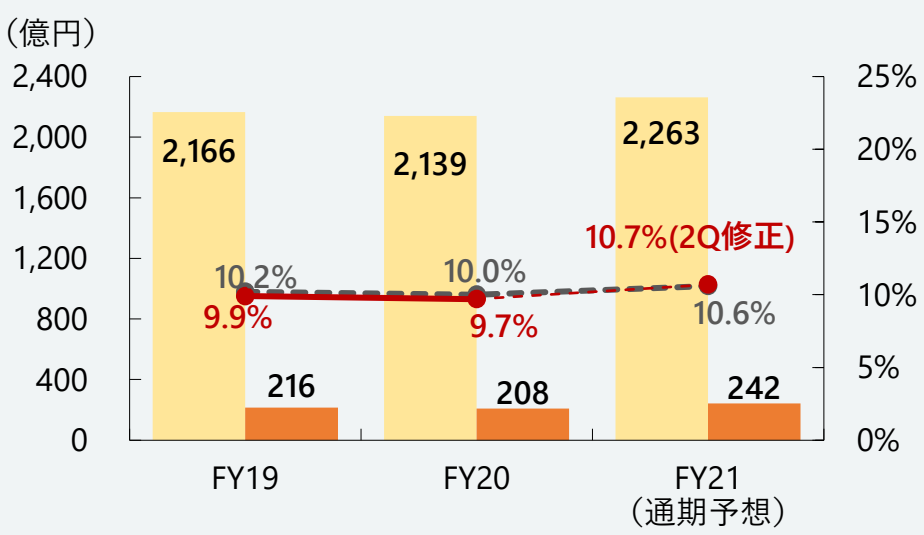
- FY21 2Q　　完工利益額は前期と同水準
- FY21通期　　完工高、完工利益額・率ともに前期を上回る大幅な増収・増益を見込む

国　内

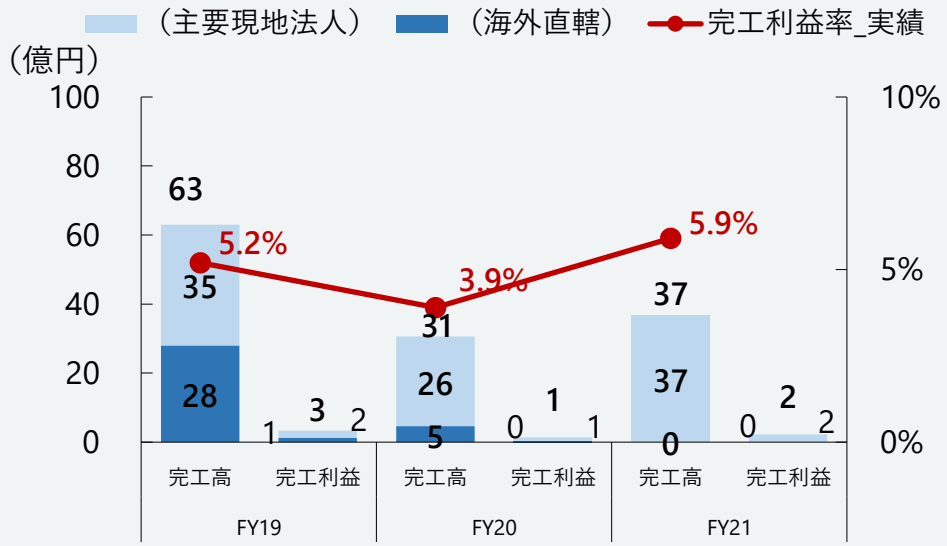
第2四半期

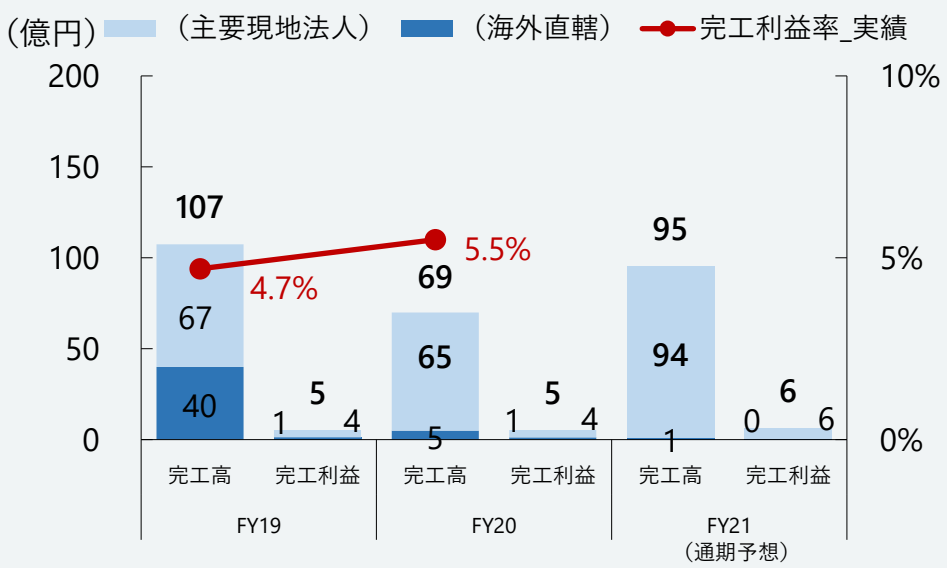


通期



海　外

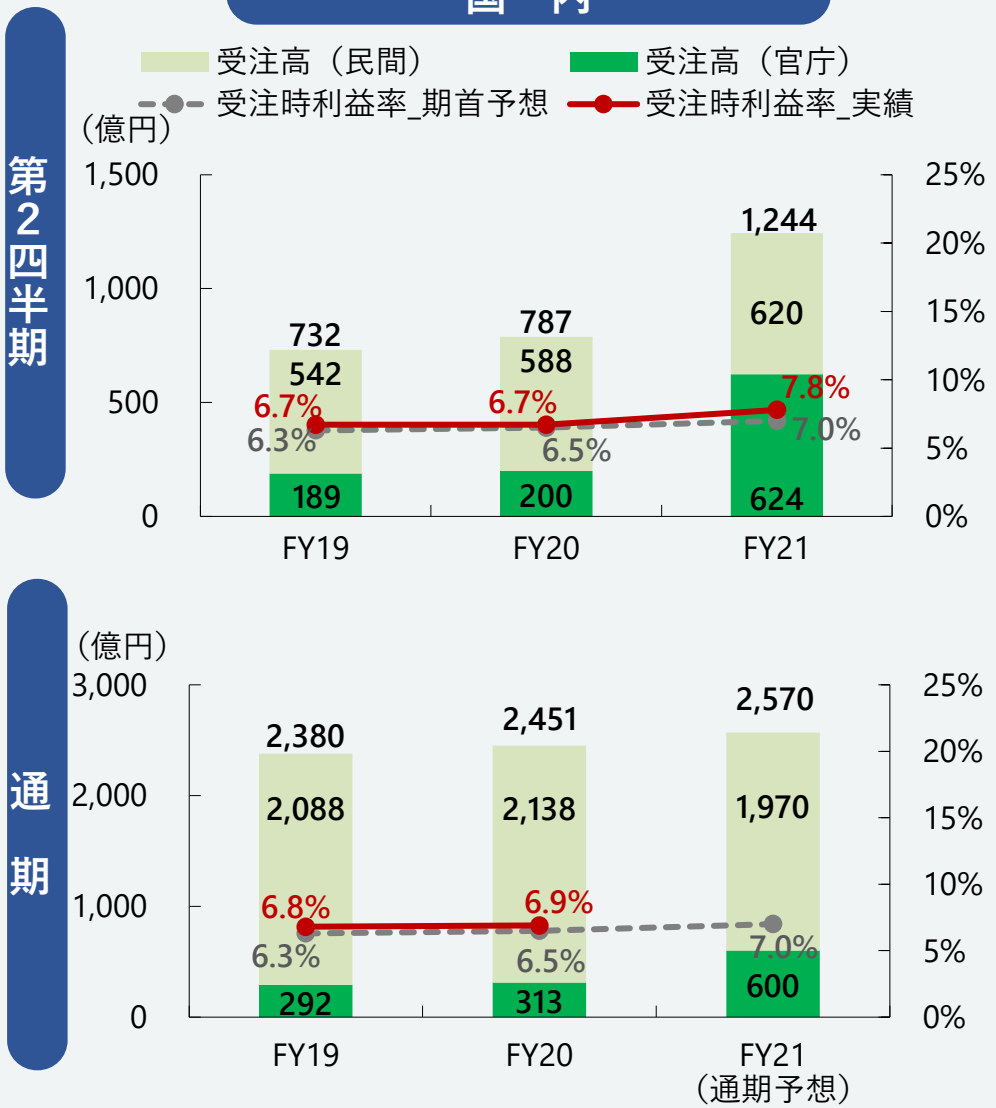




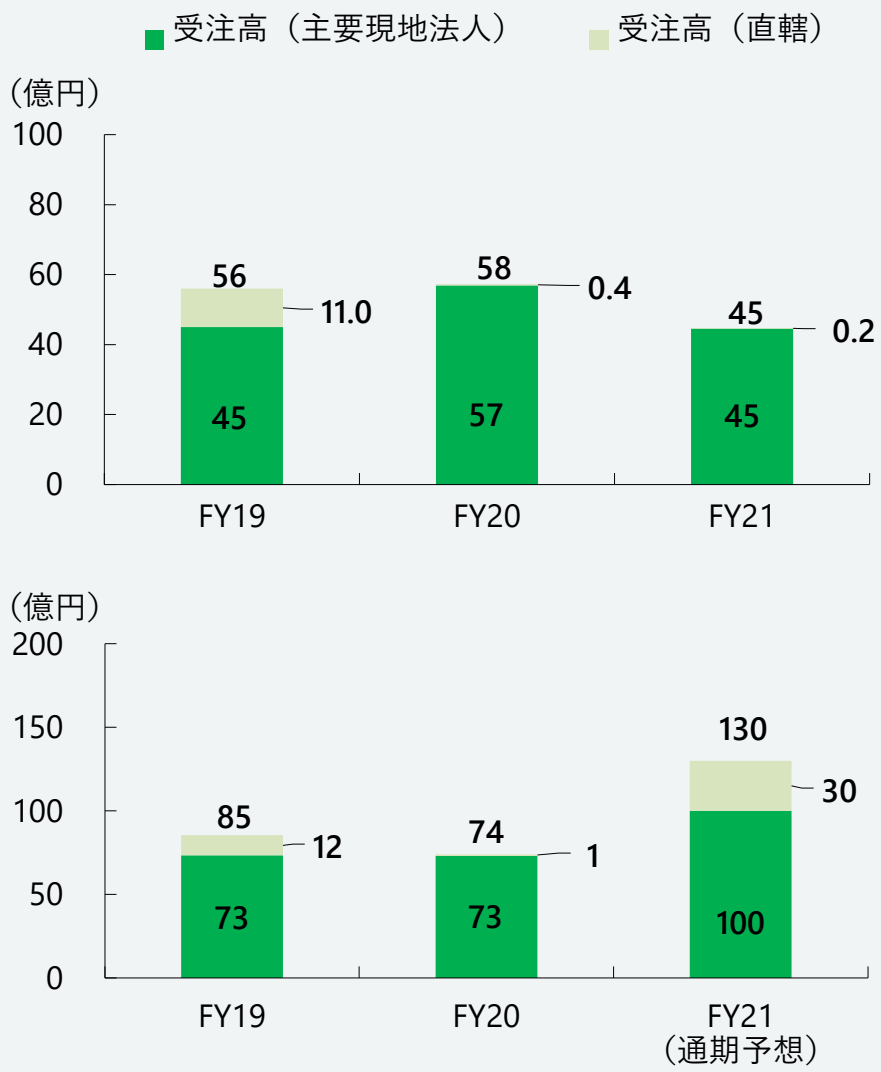
6．【個別】建築事業 受注高と受注時利益率の推移

- FY21 2Q　国内の受注高は順調に推移
  コンセッション関連案件の受注により、官庁工事の受注が増
- FY21通期　国内の受注高・受注時利益率共に、期首公表値を達成の見込み

国　内

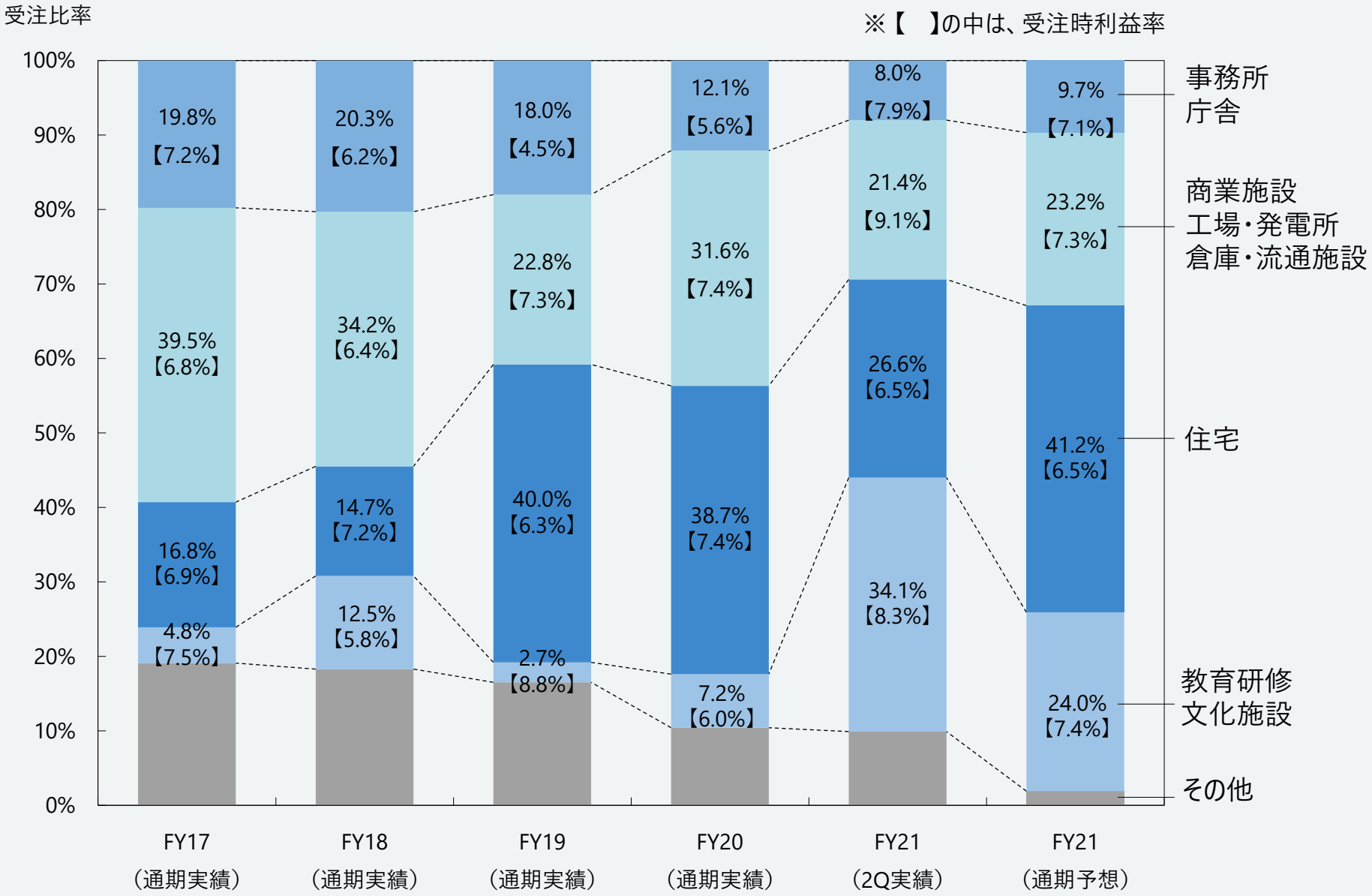


海　外



7．【個別】建築事業 建物用途別 国内受注比率の推移

- FY21 2Q　屋内外スポーツ施設の受注により『教育研究・文化施設』の比率が高まる
- FY21通期　大型再開発案件の受注により『住宅』の比率が高まる



８． 多様な用途における大型工事の受注に向けた取組みに注力

(仮称) 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業 5-5街区タワー棟 新築工事

東京五輪競技大会後のレガシーとなるまちづくりに向け、都心から近く海に開かれた立地特性を生かして、子育てファミリー、高齢者、外国人等多様な人々が交流し、いきいきと生活できるまちづくりを目指す

発注者：三井不動産レジデンシャル株式会社、エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社、日鉄興和不動産株式会社、住友商事株式会社、住友不動産株式会社、大和ハウス工業株式会社、東急不動産株式会社、東京建物株式会社、野村不動産株式会社、三菱地所レジデンス株式会社

用　途	タワー住宅
構造・規模	RC造、地下１階・地上５０階
延床面積	８４，２８９㎡
工　　期	2022年1月～2025年8月

愛知県新体育館整備・運営に係る建設業務

国際大会を開催するために必要な規模・機能を有することで、国際スポーツ大会等の誘致を可能とし、かつ、大相撲名古屋場所の開催等現体育館が担ってきた伝統や歴史をさらに発展させていく愛知・名古屋のシンボルとなる施設を目指す

発注者：株式会社愛知国際アリーナ

用　途	アリーナ
構造・規模	RC造・S造、地上５階
延床面積	５８，４００㎡
工　　期	2022年7月～2025年3月

事業別ハイライト

建築事業

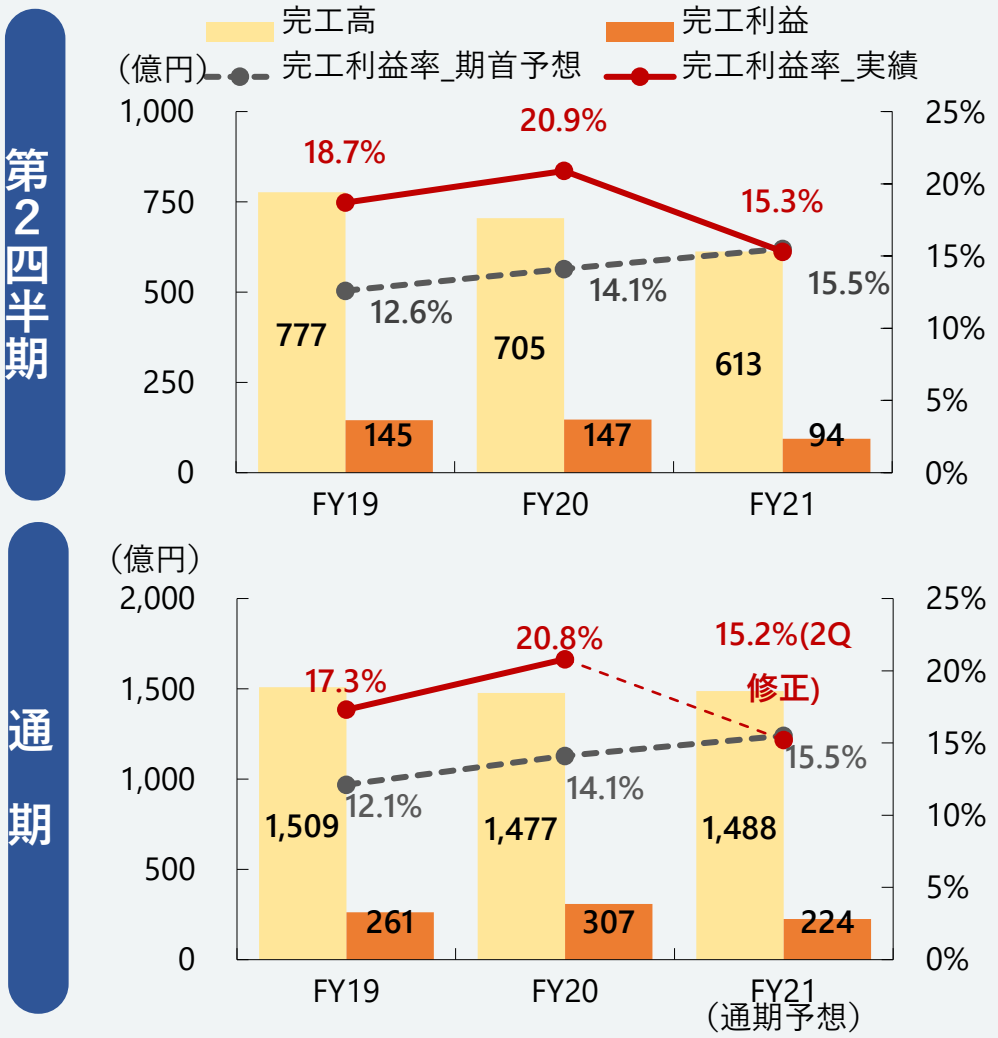
土木事業

インフラ運営事業
（脱請負）

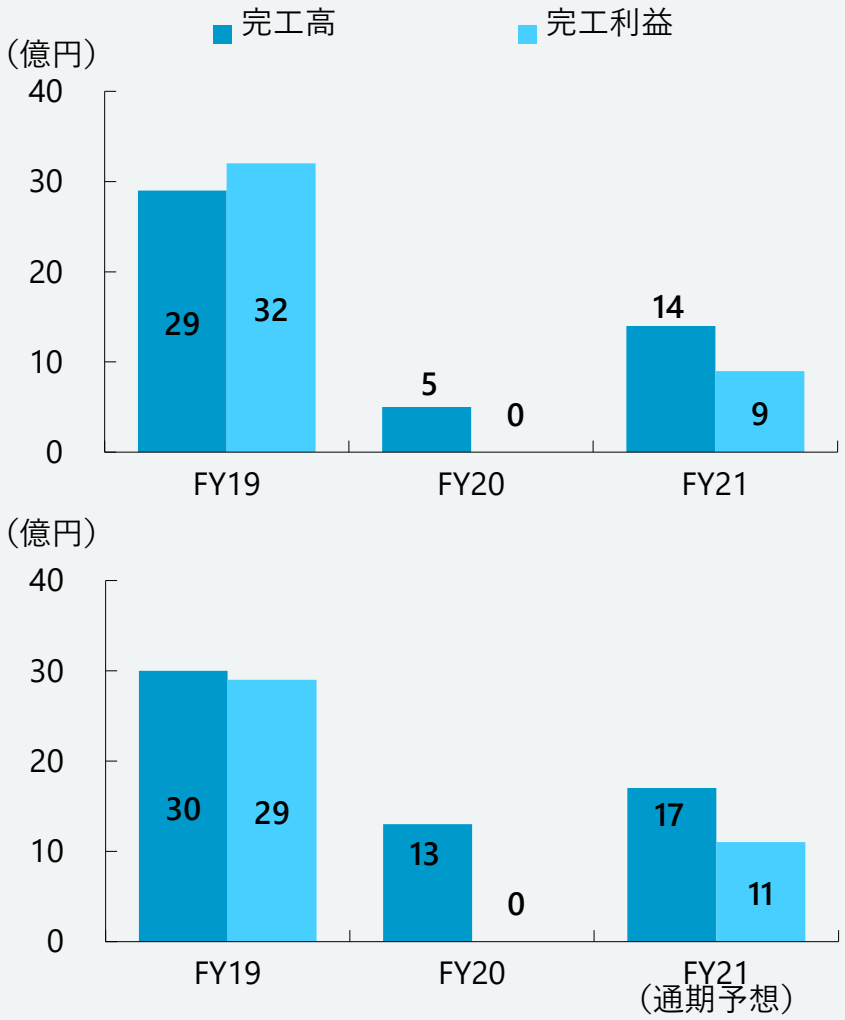
9．【個別】土木事業　完工高と完工利益の推移

- FY21 2Q　過年度の特殊要因（FY19：海外の係争案件の引当金の戻り、FY20：大型設計変更の獲得）を除くと前年同期並みで進捗
- FY21通期　国内完工高は、期首公表値を上回る見込みであり、完工利益の底上げに注力

国　内



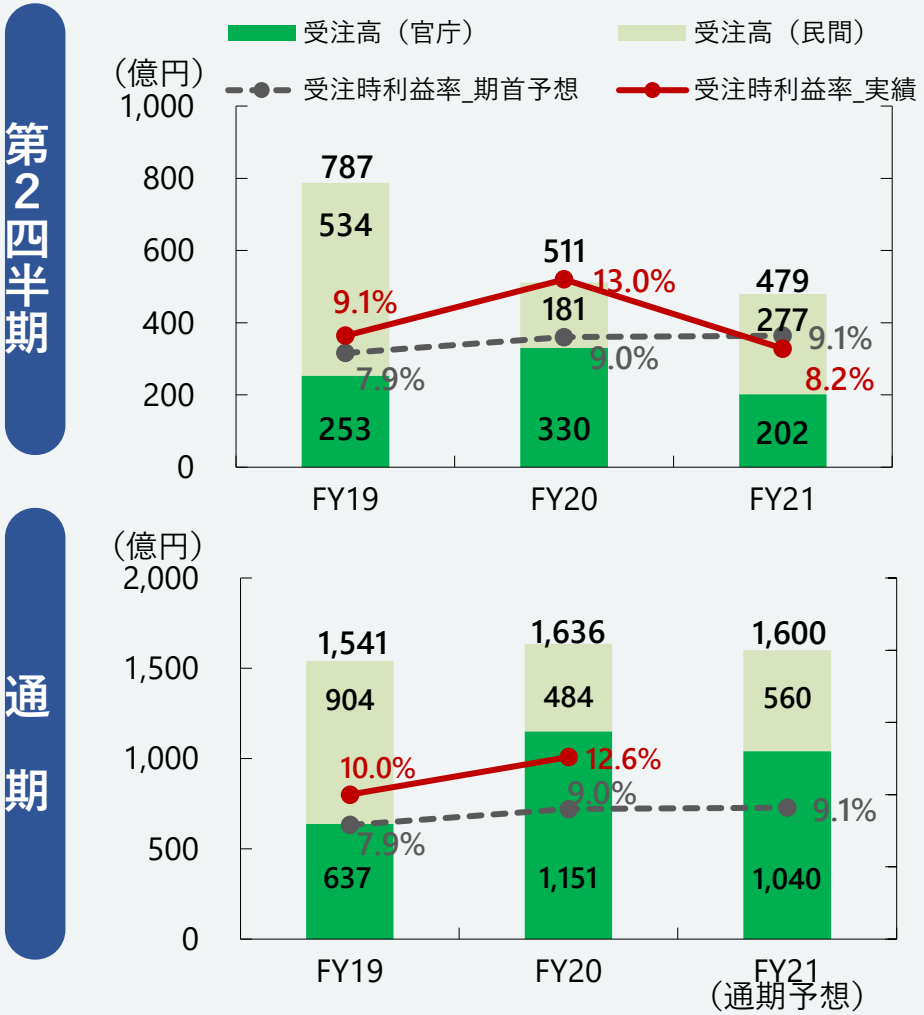
海　外



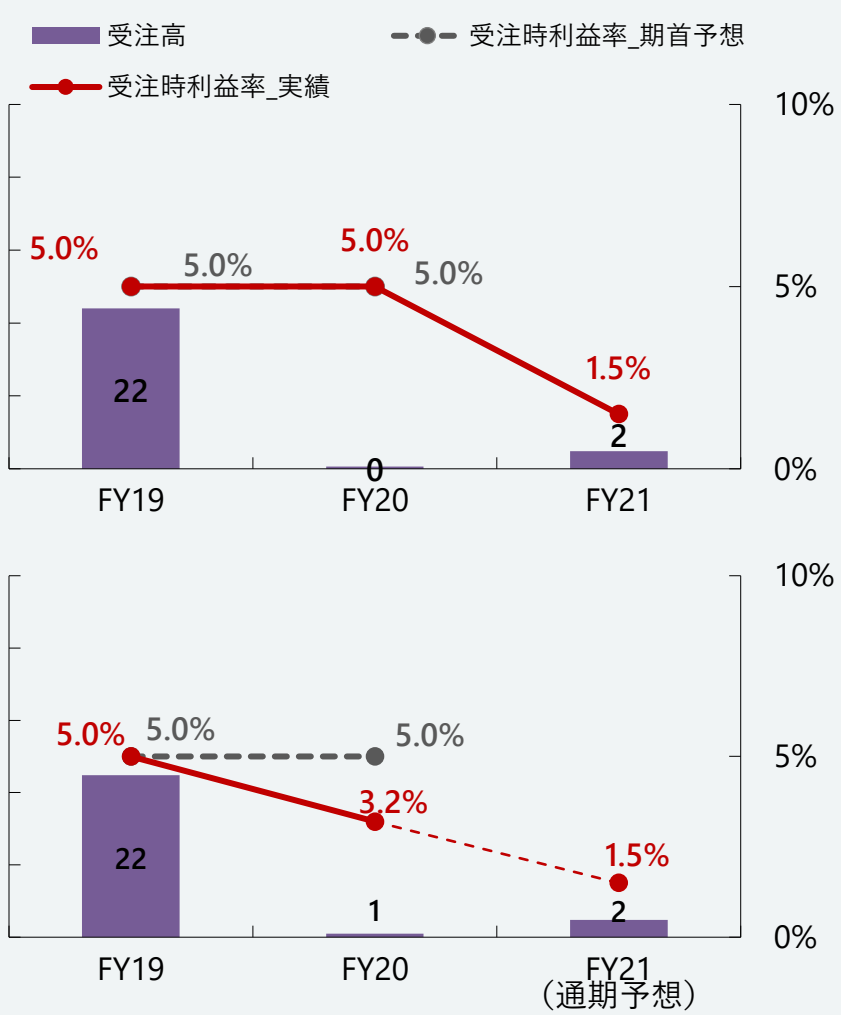
10. 【個別】土木事業　受注高と受注時利益率の推移

- FY21 2Q　官庁工事は競争激化により減少するも、民間工事が好調で、全体の受注高は微減
  受注時利益率は現時点で8.2％であるが、下期に多数出件する大型官庁案件と設計変更の獲得により目標を達成する見込み
- FY21通期　下期に予定される大型工事の受注、設計変更の更なる獲得により目標達成を図る

国　内



海　外



11. 高速道路を始めとする道路大型更新・リニューアル工事の受注に向けて

首都圏中央連絡自動車道　阿見工事

現在２車線供用中の「首都圏中央連絡自動車道」牛久阿見IC～阿見東IC間の４車線化に向けた
土工事、高架橋橋梁下部工、橋台工、耐震補強工の大型複合更新工事を受注
今後増加が予測される4車線化を始めとした更新工事、リニューアル工事受注に向けた試金石となる期待の工事

発注者：東日本高速道路㈱ 関東支社

施工場所	茨城県稲敷郡阿見町
工事概要	工事延長 L=6,663ｍ（盛土工区L=2,807.5m V=1.2万㎥ 高架橋工区 L=2,429.4ｍ 橋脚41基 橋台4基　他）
工　　期	2021年8月～2024年6月

事業別ハイライト

建築事業

土木事業

インフラ運営事業
（脱請負）

12. インフラ運営事業の連結利益への貢献

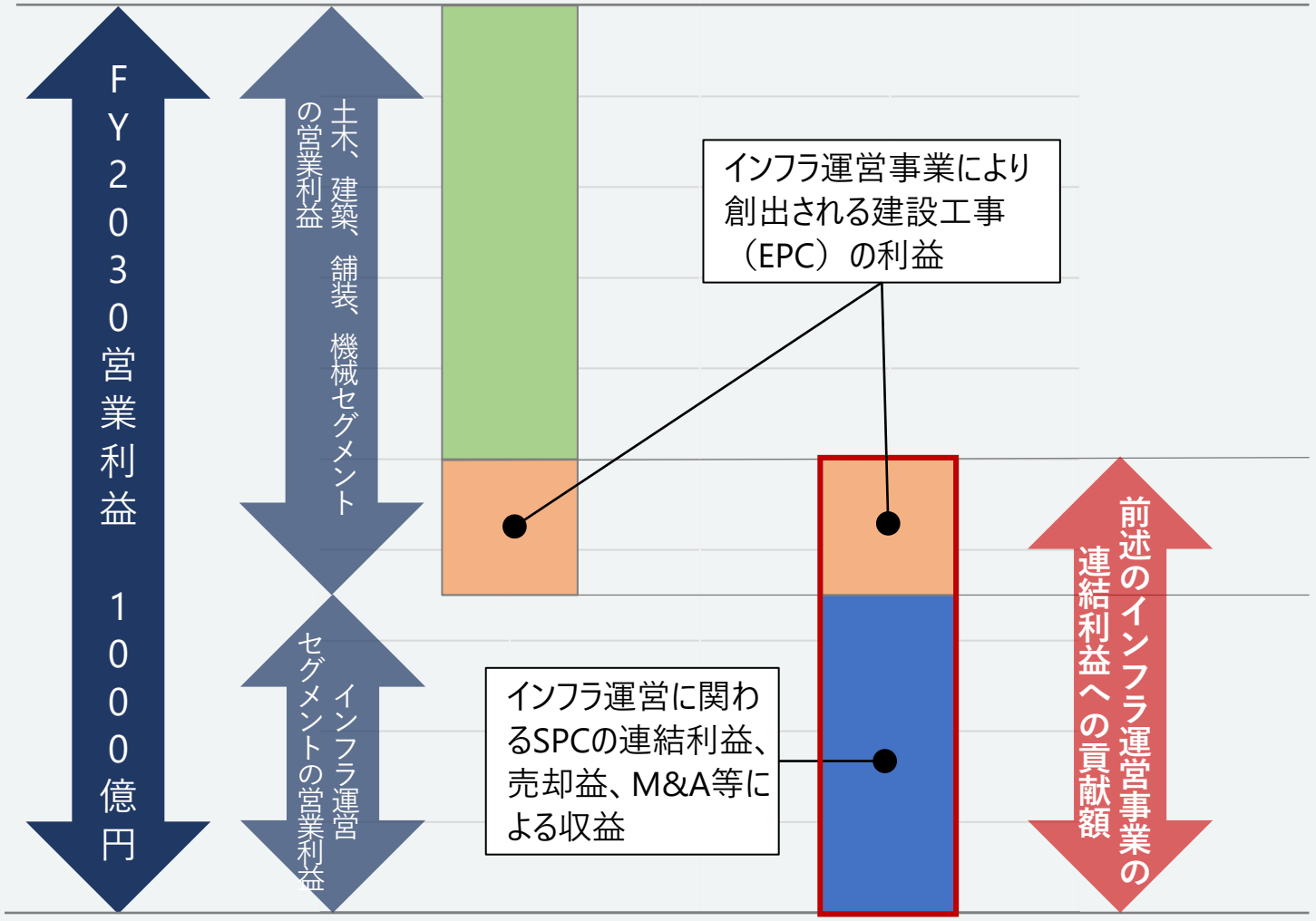
- FY21 2Q　再エネ事業は概ね堅調に推移。コンセッションはコロナの影響から回復基調
- FY21通期　再エネ事業の売却益計上により目標を達成見通し

		FY16 (実績)	FY17 (実績)	FY18 (実績)	FY19 (実績)	FY20 （実績）	FY21 （予想）	FY30 NEXT10
連結利益への貢献（合計）		**22億円**	**46億円**	**62億円**	**53億円**	**52億円**	**100億円**	**300億円**
内訳	連結子会社の営業利益 (愛知道路C、五葉山太陽光等)	19億円	39億円	38億円	48億円	43億円	33億円	–
	単体業績貢献 (O&M,EPC,開発等業務委託利益等)	2億円	7億円	13億円	5億円	12億円	4億円	–
	その他収益 ※	1億円	0億円	11億円	0億円	-3億円	63億円	–

※ その他収益には売却益、非連結SPC株式配当等を含む

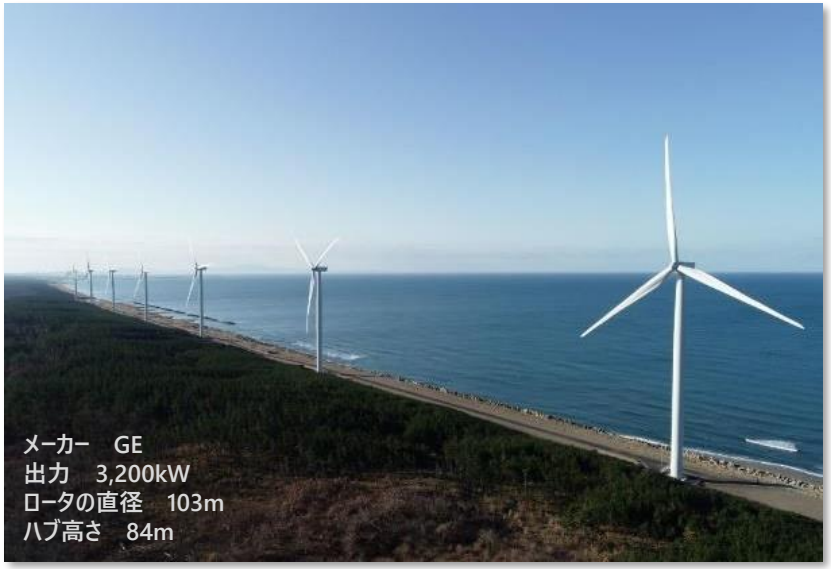
13. インフラ運営セグメントの利益貢献額について

・「前述のインフラ運営事業の連結利益への貢献額」は、「インフラ運営事業により創出される建設工事（EPC）の利益」と「インフラ運営に関わるSPCの連結利益、売却益、M&A等による収益」を合わせた数値



14. 運営中のインフラ運営事業

八峰風力発電事業



秋田県八峰町における設備容量20MWの陸上風力発電事業（2019年2月営業運転開始）
前田建設がPJの開発、建設、運営まで一気通貫に携わるエネルギー・インフラ事業

発電規模：19,950 kW （3,200 kW×7基）

	計画	実績
発電量（累計）	131,762MWh	134,090MWh
売電収入（累計）	28.9億円	29.4億円
※累計期間：2019年4月から2021年9月期まで		

愛知県有料道路コンセッション

新型コロナウイルス感染拡大の影響で通行料金収入は減少するものの業績への影響は限定的
運営開始後5年を経過して、DXとR&D推進によるシステム開発を進めさらなる運営効率化を目指す

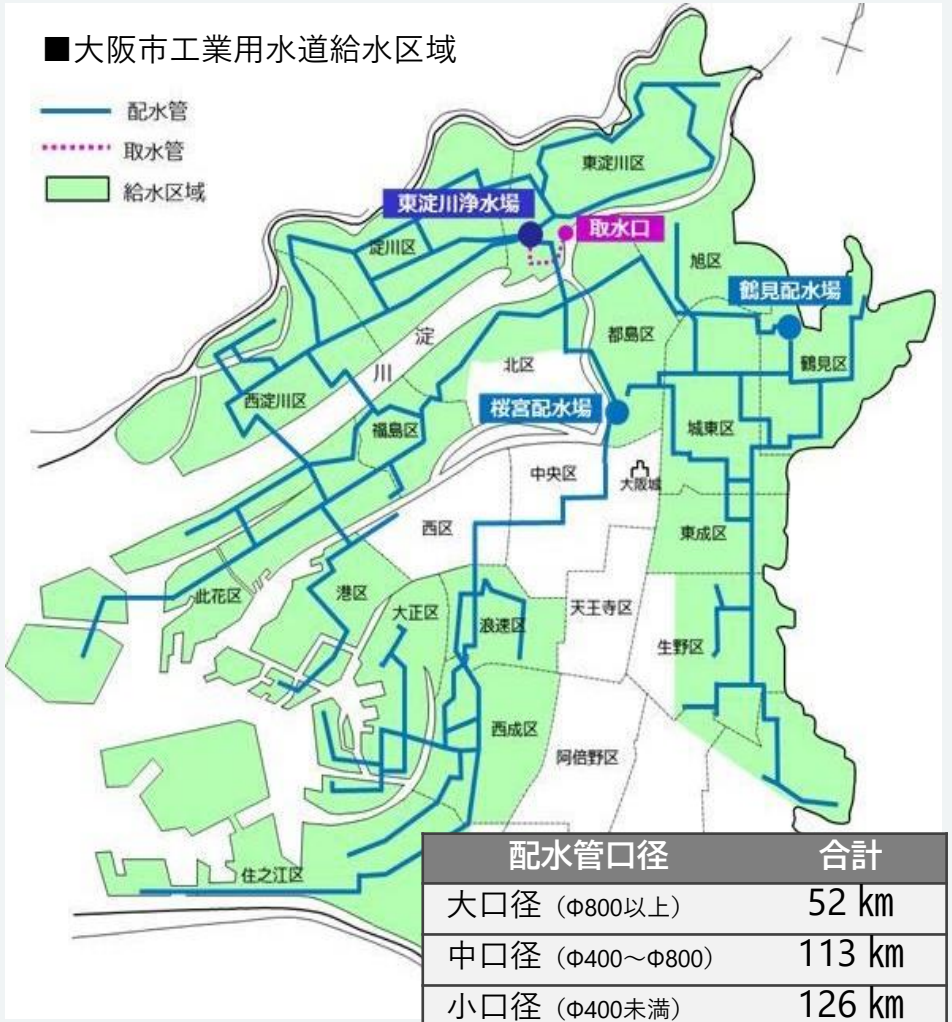
公共施設等運営権：知多4路線ほか計7路線

	今期予測	前年実績
売上高	140億	128億
営業利益	24億	31億
当期純利益	1.9億	2.8億

15. 大阪市工業用水道特定運営事業等のご紹介

- 国内初、民間事業者が経済産業大臣に許認可を受け工業用水道事業者として事業を運営
- 国内初、管路の状態監視保全・更新工事から料金徴収までを含むオールイン工水コンセッション事業

発注者	大阪市水道局
事業会社	みおつくし工業用水コンセッション株式会社
構成企業	**前田建設(71%)** 日本工営(25%) NTT西日本(3%) 東芝インフラシステムズ(1%)
期間	2022年4月～2032年3月（10年間）
対象	取水・浄水：施設管理 → 運転管理 → 水質管理（大阪市に*再委託*） → 配水 → 料金収受 顧客対応 → 管路管理
業務内容	• 工業用水の供給および経営等 • 浄水場及び配水場の管理運営 • 管路の管理運営（維持管理・更新） • お客さまサービス • 災害及び事故への対応



配水管口径	合計
大口径（Φ800以上）	52 km
中口径（Φ400～Φ800）	113 km
小口径（Φ400未満）	126 km
合計	290 km

前田道路(株)
22年3月期（FY21）第２四半期　決算概要

1．【連結】22年3月期（FY21） 損益計算書

- FY21 2Q　売上高は維持するものの、原油価格の高騰や円安が想定以上に進み、大幅減益
- FY21通期　原油価格上昇分の販売価格への転嫁等、期末に向けて収益は改善する可能性がある

（億円）

第2四半期

	FY20実績	FY21実績	前年比較	
			増減	増減率
売上高	1,041	1,064	+23	+2.2%
売上総利益	150 (14.4%)	103 (9.6%)	-47	-31.7%
一般管理費	56 (5.4%)	60 (5.6%)	+4	+6.0%
営業利益	94 (9.0%)	43 (4.0%)	-51	-54.4%
経常利益	97 (9.3%)	44 (4.2%)	-53	-54.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	80 (7.6%)	43 (4.0%)	-37	-46.2%

（億円）

通期

	①FY20実績	FY21通期予想		前年比較（③と①の比較）		期首予想との比較（③と②の比較）	
		②期首予想	*③修正予想*	増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,346	2,400	*2,400*	+54	2.3%	0	0%
売上総利益	333 (14.2%)	325 (13.5%)	*270 (11.1%)*	-63	-18.9%	-55	-16.9%
一般管理費	126 (5.4%)	134 (5.6%)	*134 (5.5%)*	+8	+6.4%	0	-0.3%
営業利益	207 (8.8%)	191 (8.0%)	*136 (5.6%)*	-71	-34.2%	-55	-28.6%
経常利益	211 (9.0%)	194 (8.1%)	*137 (5.6%)*	-74	-34.9%	-57	-29.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	168 (7.1%)	130 (5.4%)	*110 (4.5%)*	-58	-34.3%	-20	-15.4%

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

第２四半期

	FY20 2Q実績	FY21 2Q実績	増減
売上高	**1,041**	**1,064**	**+23**
建設事業	711	735	+24
製造販売	327	326	-1
その他	3	3	0
売上総利益	**150**	**103**	**-47**
建設事業	76	60	-16
製造販売	73	41	-32
その他	2	2	0

通　期

（億円）

① FY20 実績	② FY21 期首予想	③ FY21 修正予想	前年比較 ③－①	期首予想との比較 ③－②
2,346	**2,400**	*2,400*	**+54**	**0**
1,605	1,640	*1,637*	+32	-3
735	760	*763*	+28	+3
6	－	*－*	-5	-
333	**325**	*270*	**-63**	**-55**
173	174	*160*	-13	-14
158	151	*110*	-48	-41
1	－	*－*	-1	-

事業別ハイライト

建設事業

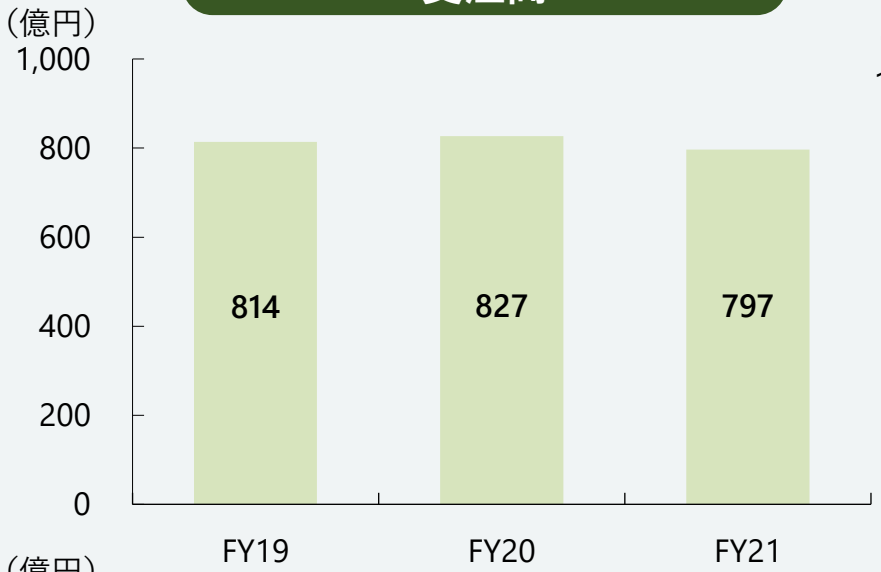
製造販売

3．【連結】建設事業 受注高及び完工高と完工利益の推移

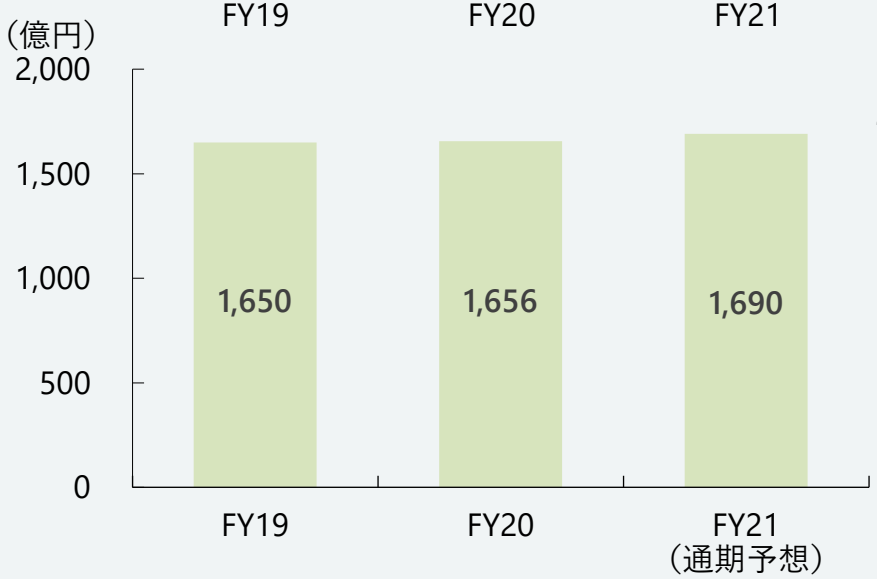
- FY21 2Q　受注高及び完工高は横ばいで推移、利益は原価率の悪化により減少
- FY21通期　手持工事の進捗により完工高増、経費を吸収し利益改善

受注高

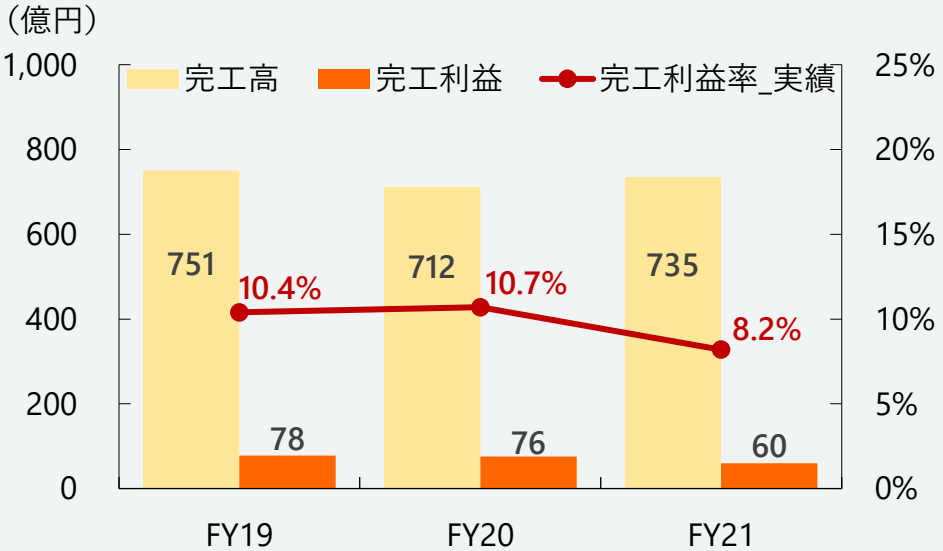
第2四半期

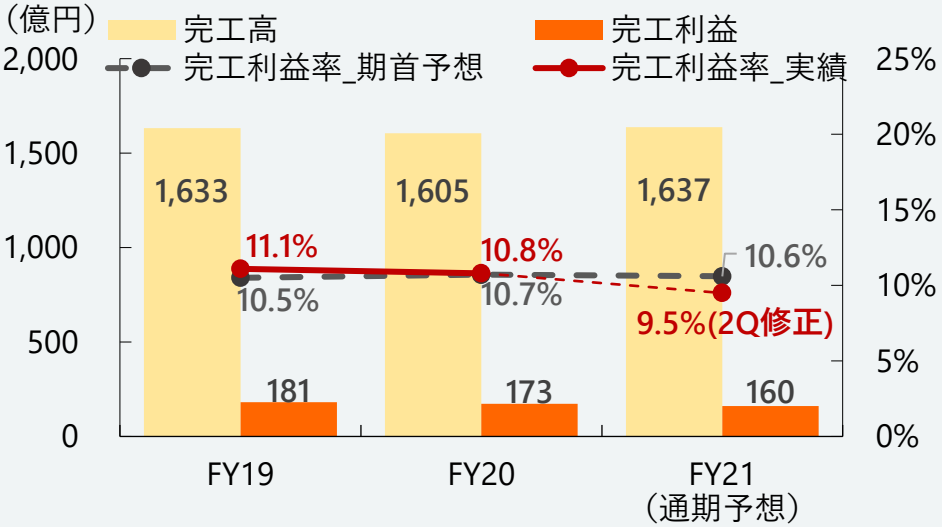


通期



完工高と完工利益





4． 建設工事実績

建設事業（舗装・土木）

大規模な高速道路、空港・港湾、スポーツ施設、民間駐車場等幅広く展開

東名高速道路　冨士管内

大分空港

岡崎市龍北総合運動公園サッカー場

国土交通大臣から表彰を受けました

24.建設機械搭載型レーザスキャナによる土工・舗装工事のリアルタイム出来形管理の実現　国土交通省

推薦者	法政大学　今井龍一
業者名	前田道路株式会社 三菱電機エンジニアリング株式会社 法政大学　今井龍一（デザイン工学部 教授） 中村健二（大阪経済大学 教授） 塚田義典（摂南大学 講師）
本社所在地	東京都品川区

【取組概要】

- ICT舗装工では表層の面管理のためのデータ計測が必須であるが、現状では計測からデータ処理、そして出来形の品質確認に時間を要するため、路床や路盤工では実施できていない。
- 本システムは、舗装工の中間工程における面管理の効率化を目的として、建設機械搭載型のレーザスキャナを開発した。
- 施工と同時に点群データを計測し、結果を解析処理しリアルタイムに確認できる。
- 発注者は計測から1時間以内に、現地に行くことなく、リモートで出来形の品質を確認できる効果を享受する。

- リモートで出来形品質を確認できるため、省力化や監督員との情報共有など、施工管理の高度化や生産性向上に寄与する。また、コロナ禍でニーズが高まっている発注者の遠隔臨場に活用できる先進的な技術といえる。
- 実務者の用途を満足するために開発しており、地元業者でも導入しやすい価格帯の出来形計測装置の開発を行うとともに、現場における施工事例を積み重ねており、波及性が高い。

i-Construction 大賞
表彰状
優秀賞
前田道路株式会社　殿
三菱電機エンジニアリング株式会社　殿
法政大学　殿
建設機械搭載型レーザスキャナによる土工・舗装工事のリアルタイム出来形管理の実現
貴社はi-Constructionの推進にあたり優れた取組を実施し、建設現場の生産性向上に積極的に取り組まれ、他の模範となる大きな成果を挙げられた功績は顕著であります
よってこれを表彰します
令和3年3月5日
国土交通大臣　赤羽一嘉

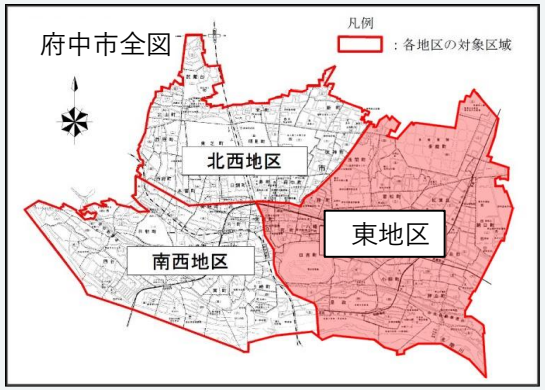
「建設機械搭載型レーザスキャナによる出来形管理システム」は、As舗装工の前工程である路床工や路盤工の仕上り面の形状を、建設機械に搭載した装置（レーザスキャナ）で計測し、短時間でデータ処理して3次元的に出来形管理を行う革新的なICT技術

まえだパーク・まえだTEQ

- 防災施設　地域貢献・環境貢献をコンセプトに近隣住民のための防災施設と憩いの場を提供
- 水環境システム　敷地内に降った雨水を雨水貯留槽に貯留させ自動・手動・無動力で散水等に有効利用する環境にやさしいシステム

5．包括管理実績

東京都府中市 道路等包括管理事業(東地区)



対象区域

道路管理センター

事業の周知用広告

定例会議

路面清掃

道路補修

植栽管理

‘地域’と’人’と共に成長し続ける事業活動
・当社のノウハウを活用した、市民サービスの向上とVFM創出 ・次のステップに向けた、事業のレベルアップとデジタル化推進

契約期間	2021年4月～2024年3月（3年間）
業務内容	コールセンター（市全域）、統括マネジメント、巡回、維持管理、補修・修繕（50万円未満）、事故・災害対応、要望相談対応【以上、総価契約】 補修更新（50万円以上500万円未満）、樹木剪定【以上、単価契約】

事業別ハイライト

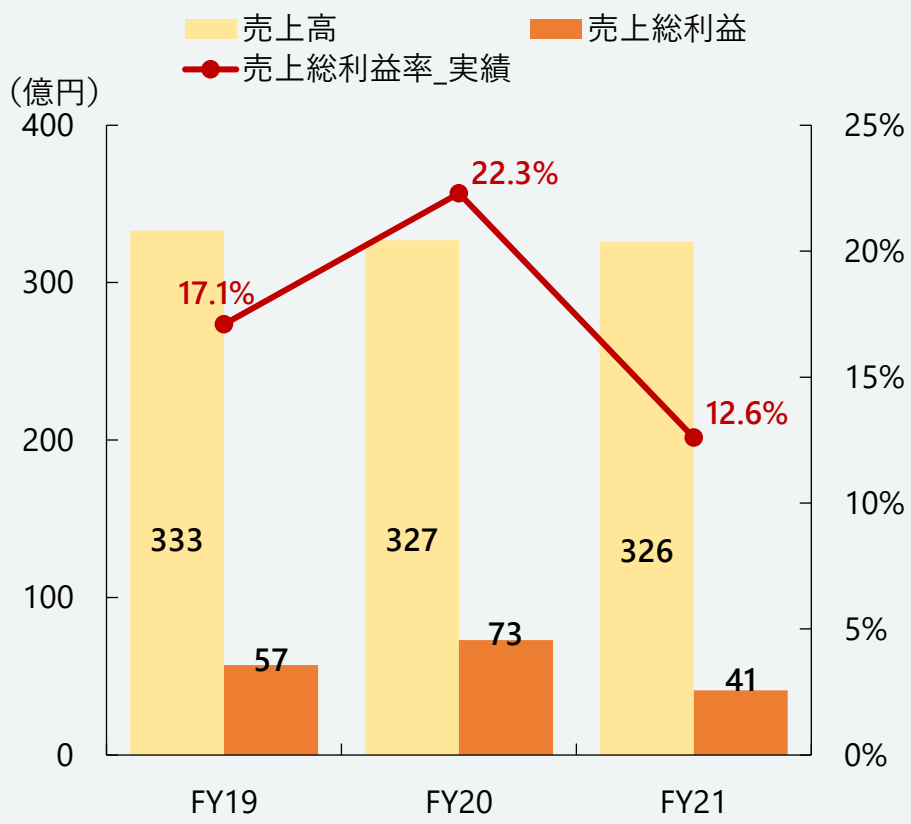
建設事業

製造販売

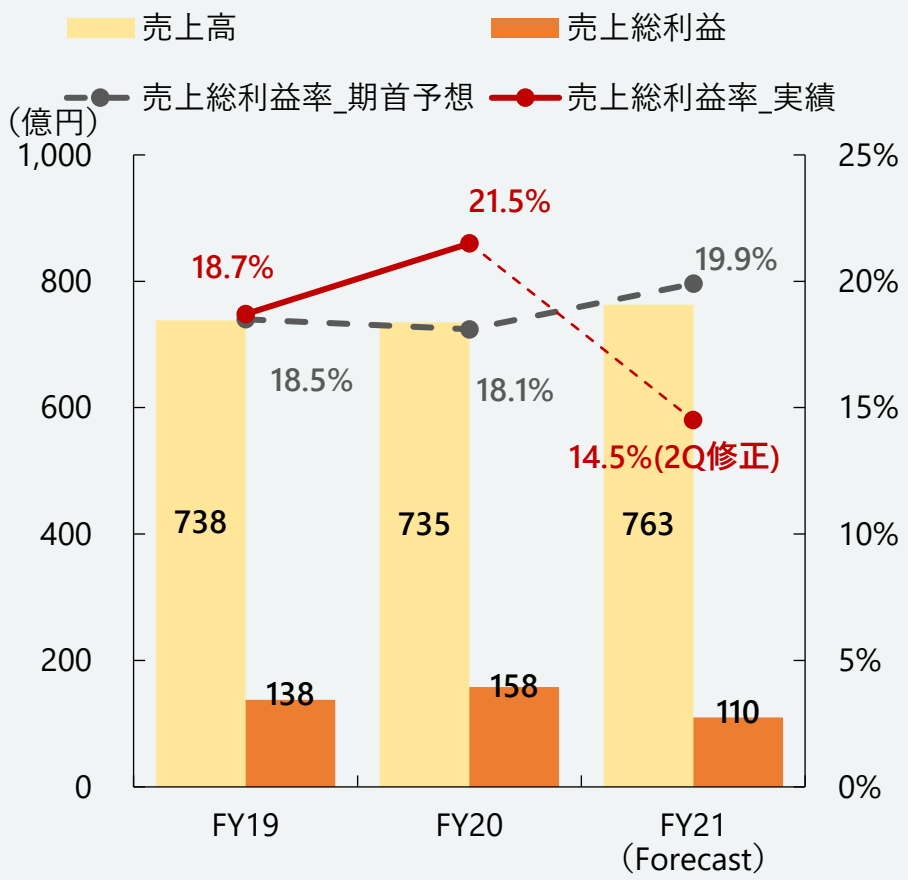
6．【連結】製造販売 売上高と売上総利益の推移

- FY21 2Q　原油価格の高騰及び円安が想定以上に進み、大幅減益
- FY21通期　期首より原油価格高騰に対する値上げを検討・協議し、11月より全国一斉値上げを発表
  通期では、値上げの促進と徹底した原価管理により収益性の改善を図る

第2四半期



通　期



7． 製造販売事業

舗装業者向けのアスファルト合材製品を製造・販売する他、一般向けの製品も取り扱う

中部支店　名古屋合材工場

全天候型高耐久常温合材

国内版「マイルドパッチ」

海外版「AQUA PATCH」

段差修正材

スマートパッチ

高耐久常温合材は国内外で100万袋の販売実績を達成

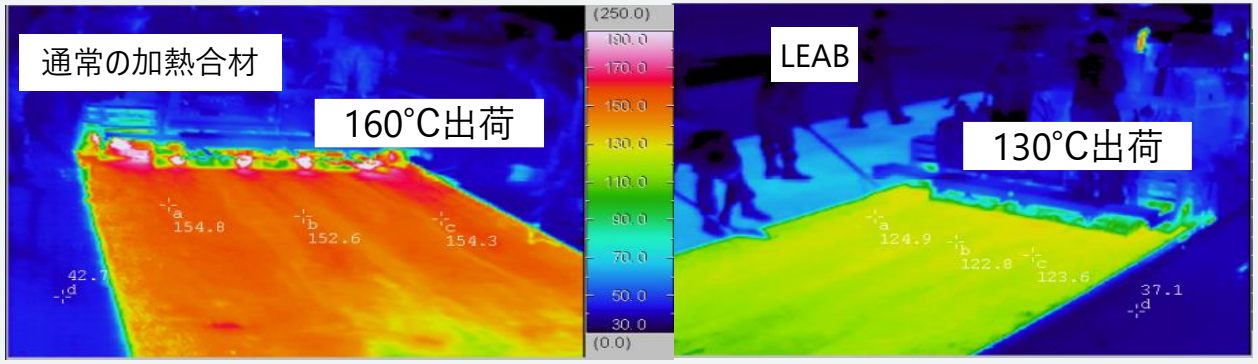
アスファルト合材出荷量800万ｔ/年（全国総出荷量の20％）

計画的な設備投資

CO_2対策を含めた、工場周辺への環境配慮を継続

朝霞合材工場蓄熱燃焼式臭炉

フォームドアスファルト(LEAB)に中温化合材試験施工



- 中温化合材は、フォームド技術を用い泡状アスファルトを使用することで合材製造時のCO2削減と夏季施工時の作業環境改善に期待できる
- 中温化合材は、従来商圏の拡大に期待できる

(株)前田製作所
22年3月期（FY21）第２四半期　決算概要

1．【連結】22年3月期（FY21）損益計算書

- FY21 2Q　建設機械、クレーンの受注販売が堅調に推移
- FY21通期　売上高、総利益ともに期首予想を達成の見込み

第2四半期

（億円）

	FY20実績	FY21実績	前年比較	
			増減	増減率
売上高	147	168	+21	14.4%
売上総利益	30 (20.5 %)	33 (19.6 %)	+3	9.6%
一般管理費	25 (17.0 %)	27 (16.0 %)	+2	8.2%
営業利益	5 (3.5 %)	6 (3.6 %)	+1	16.1%
経常利益	6 (3.9 %)	6 (3.8 %)	+0	11.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4 (2.7 %)	4 (2.6 %)	+0	8.7%

通期

（億円）

	①FY20実績	FY21		前年比較	
		②期首予想	③修正予想	増減	増減率
売上高	335	357	修正なし	+22	6.6%
売上総利益	68 (20.4 %)	74 (20.7 %)		+6	8.3%
一般管理費	54 (16.2 %)	57 (16.0 %)		+3	5.2%
営業利益	14 (4.2 %)	17 (4.7 %)		+3	19.0%
経常利益	15 (4.5 %)	18 (4.9 %)		+3	15.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	10 (3.0 %)	11 (3.1 %)		+1	10.2%

2．【連結】セグメント別　売上高・売上総利益の内訳

第２四半期

	FY20 2Q実績	FY21 2Q実績	増減
売上高	**147**	**168**	**+21**
建設機械	100	109	+9
産業・鉄構機械等	36	48	+12
介護用品・その他	11	10	0
売上総利益	**30**	**33**	**+3**
建設機械	18	18	+0
産業・鉄構機械等	7	9	+2
介護用品・その他	5	6	0

通　期

（億円）

① FY20 実績	② FY21 期首予想	③ FY21 修正予想	前年比較 ②－①
335	**357**	修正なし	**+22**
224	217		-7
89	118		+30
22	22		0
68	**74**		**+6**
39	39		0
19	24		+5
11	12		+1

事業別ハイライト

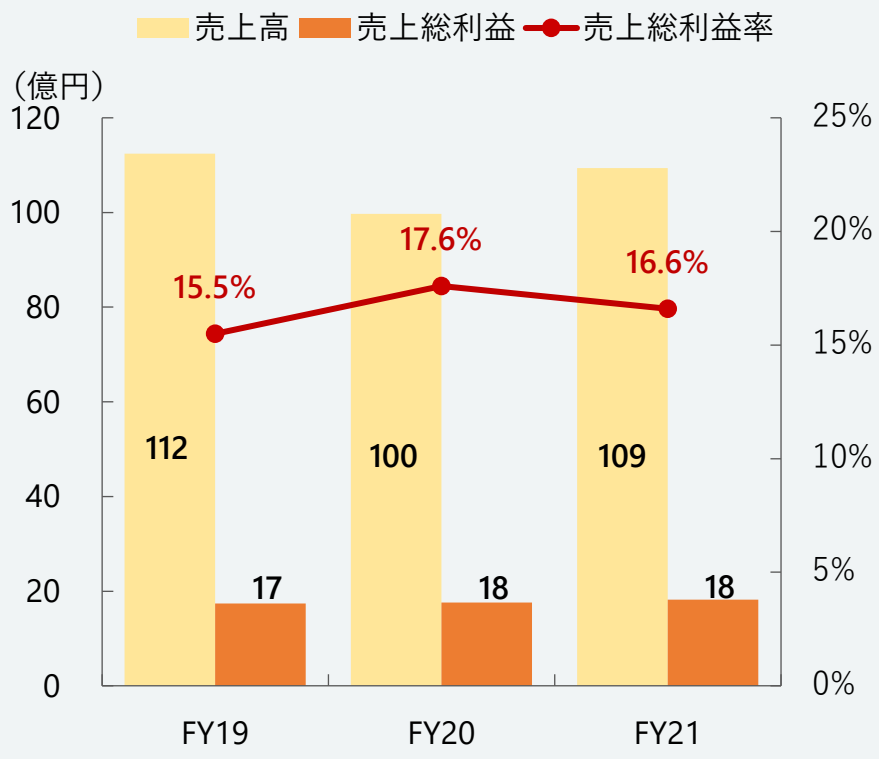
建設機械関連事業

産業・鉄構機械等
関連事業

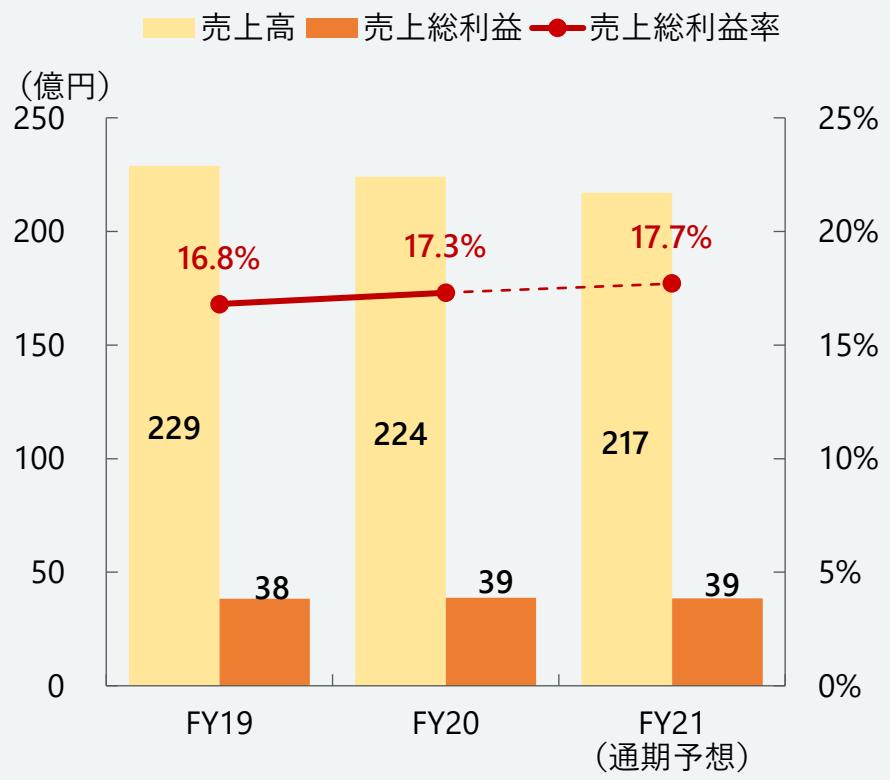
3．【連結】建設機械関連事業　売上高と売上総利益の推移

- FY21 2Q　　新車販売、サービス売上が堅調に推移
- FY21通期　　売上高、総利益ともに期首予想を達成の見込み

第２四半期



通　期



事業別ハイライト

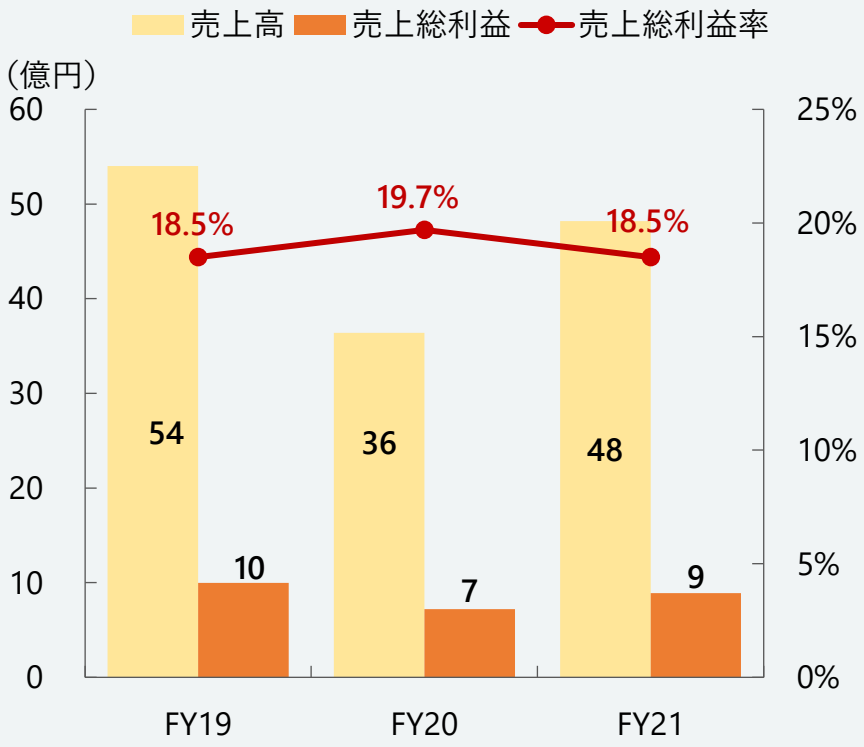
建設機械関連事業

産業・鉄構機械等
関連事業

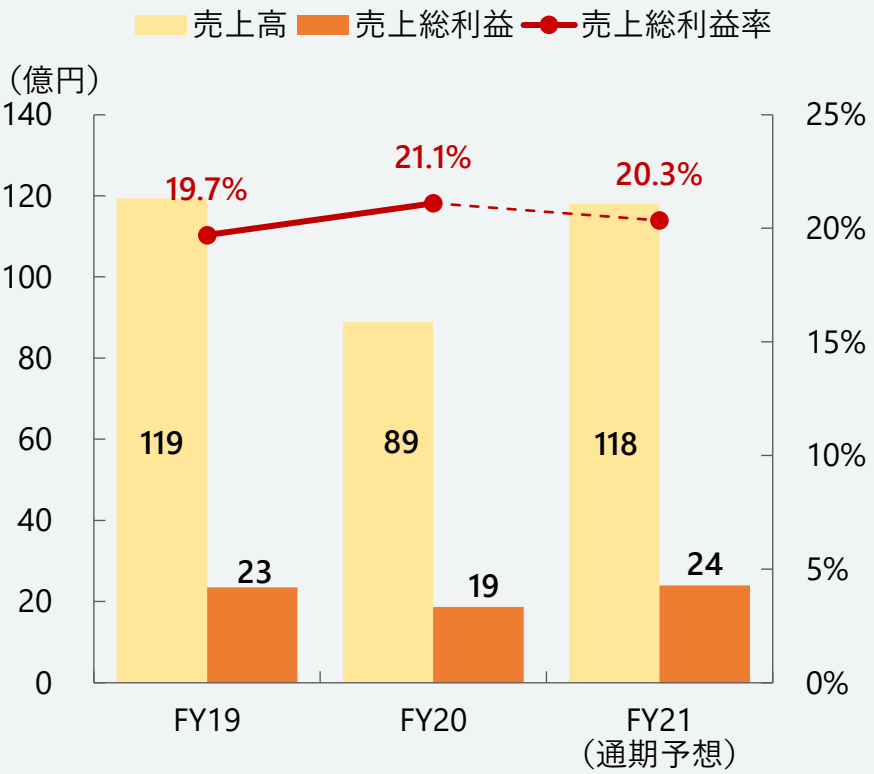
4．【連結】産業・鉄構機械等関連事業　売上高と売上総利益の推移

- FY21 2Q　　産業機械等製品（かにクレーン）売上が堅調に推移
- FY21通期　　売上高、総利益ともに期首予想を達成の見込み

第２四半期



通　期



5． 魅力ある製品の市場投入

- カーボンニュートラルに対応した自社製品を世界へ向けて販売開始

バッテリ駆動 ”かにクレーン”

Zero Emissions

排出ガスゼロ

■業界初のリチウムイオンバッテリ搭載機
■海外市場への先行導入

MC285CB-3

バッテリ仕様クレーンのラインナップ拡充

MCシリーズ　CCシリーズ

【注意事項】
本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。
また、業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

INFRONEER Holdings Inc.